地域の笑顔とエネルギーの進化
～感謝を胸に、未来を灯す～

95th



松江市ガス95周年史

── 平成・令和版 ──

発刊にあたって



松江市長

上 定 昭 仁

昭和5年、本市の都市化･近代化を支えるエネルギーの礎として誕生した本市ガス事業は、このたび事業開始から95周年の節目を迎え、同時に民間譲渡という大きな転換点に至りました。

これまで、「快適な暮らしづくり」と「環境にやさしい街づくり」を旗印に、市民の皆様が安心して暮らすことのできるライフラインとしての使命を果たすべく、幾多の困難を乗り越えてまいりました。戦後の復興期･高度経済成長期におけるエネルギー需要の急激な拡大や、度重なる自然災害からの復旧対応など、厳しい局面をも克服し安定的にガスを供給できたのは、歴代役職員と協力企業の方々の献身的な努力と、市民の皆様の温かいご理解ご支援の賜物であり、皆様に心より感謝申し上げます。

時代は今、エネルギーの自由化、脱炭素社会への移行、地政リスクの顕在化などを背景にした、前例のない変革期にあります。こうした中、私たちは将来にわたり、安心できる安全な都市ガスを滞りなく供給することを大前提に、多様化するお客様のニーズに基づく柔軟なサービス提供と、人口減少社会における地域活性化へのさらなる貢献に向けて検討を重ねてまいりました。

その結果、優れた技術と人材を有する民間企業による創意工夫と機動力の発揮こそが、市民の皆様の利益の最大化につながるものと確信し、令和8年4月1日をもって、本市ガス事業を松江エナジープラス株式会社へ譲渡いたしました。

私たちの目指す姿は、市民の皆様をはじめとするお客様、地域経済、そして松江市の「三方よし」が実現される持続可能な都市ガス事業の確立です。安全かつ付加価値の高いサービスが提供されることで「お客様」の満足度を高め、事業を通じた雇用創出や投資によって「地域経済」を活性化させるとともに、本市の都市計画、エネルギー政策、防災対策などと連携した経営が行われることで、「松江市」の持続可能なまちづくりを実現してまいります。

これから、新会社とのパートナーシップの下、都市ガスを市民の皆様に持続的･安定的に供給することを通じて、「夢を実現できるまち 誇れるまち 松江」の創造に力を尽くしてまいりますので、皆様のご協力をお願いいたします。

結びに、本市ガス事業のこれまでの歩みを記録した『松江市ガス95周年史（平成･令和版）』の編纂にご尽力いただきましたすべての皆様に感謝申し上げて、発刊にあたってのご挨拶とさせていただきます。



松江市ガス事業管理者 ガス局長

山 内 政 司

「松江市ガス95周年史（平成･令和版）」を発刊するにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

本市ガス局は、公営として昭和5年に創業し、今日まで原料をナフサからブタン、天然ガスへと転換しつつ、また昭和35年にはプロパンガスの供給を開始し、各種サービスを展開しながら、市民生活や産業経済の支えとなるライフラインとして、保安の確保を第一に安全安心･安定供給に努めてまいりました。

とりわけ本局は、平成11年に慣れ親しんだ向島町から平成町へ事業所･製造基地を移転し（平成16年までは向島工場と併用）、12年には橋南地区、16年には橋北地区の熱量転換事業を実施し、環境にやさしいLNGによる都市ガス供給を続けてきました。

一方、ガス事業の操業当初には僅か1,447戸であったお客様件数も、市民生活には欠かせないエネルギーとして平成10年には16,222戸のお客様にご利用いただきましたが、人口減少や他燃料との競合、そして都市ガスをはじめとするエネルギーを取り巻く環境が急速に変化する中、令和6年度には11,824戸となり、減少の一途をたどるようになりました。

そのような中で、今日まで95年にわたり継続してきたガス事業を、時代に適したサービスを提供しお客様の満足度を高め、また地域活性化に貢献する総合エネルギー事業として将来にわたって継続していくために、松江エナジープラス株式会社へ事業譲渡することとなりました。

これまで長きにわたり都市ガス･プロパンガスを提供してこられたのも、お客様の変わらぬご愛顧と、工事関係者、委託事業者など、関係者の皆様のご理解･ご協力によるものと、心より感謝申し上げるとともに、昭和の時代から情熱をもって本市ガス事業に携わってこられた諸先輩方のたゆまぬ努力があったからこそと、お礼申し上げます。

結びに、松江エナジープラス株式会社には、ガス事業を将来にわたり益々発展させていただくとともに、新たなサービスによるお客様･地域経済･松江市の「三方良し」となる事業を展開されることをお願いして、ご挨拶とさせていただきます。

CONTENTS

第1章

8 松江市ガス局庁舎と製造施設

12 部署紹介

20 広報活動

30 クラブ活動

32 奉仕活動・レクリエーション

34 松江市ガス事業譲渡式

第2章

36 平成と令和を振り返って

歴代ガス事業管理者 ガス局長

廣江 朝夫 ［在任期間：平成6年4月～平成10年3月］

仁井 良治 ［在任期間：平成10年4月～平成14年3月］

福島 祥二 ［在任期間：平成14年4月～平成17年3月］

谷 正次 ［在任期間：平成17年6月～平成21年5月］

松本 修司 ［在任期間：平成21年6月～平成25年5月］

47 特別企画 座談会 ―熱量変更事業を振り返って―

第3章

60 熱量変更に向けて
［1989（平成元）年～1999（平成11）年］

第4章

88 新しいガスへの転換
［2000（平成12）年～2004（平成16）年］

第5章

112 都市ガス事業の健全な継続に向けて
［2005（平成17）年～2025（令和7）年］

第6章

166 松江市のガス事業は民間へ

第7章

196 営業・お客様サービスの拡充

第8章

200 グループ会社の取り組み

第9章

202 資料編

- 事業開始から昭和までの年表
- 歴代管理者等名簿
- 機構の変遷
- 施設の概要
- 供給区域図
- 需要家件数の推移
- ガス製造量の推移
- ガス販売量の推移
- 財務状況の推移
- 都市ガス料金の変遷
- 職員数の推移
- 表彰

247 あとがき



松江市ガス局 職員（令和7年7月4日撮影）

向島町庁舎

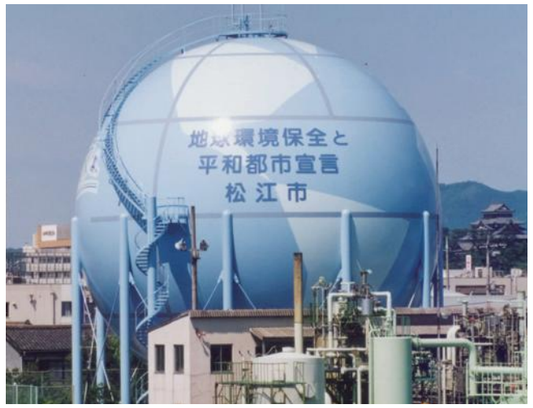


ガス庁舎／1966（昭和41）年8月新築



ガス庁舎別館（ガスライフ）／1989（平成元）年3月完成





球形ガスホルダー美観事業（1992（平成4）年）ガスホルダーを地球儀にみたて、
生命の源である水や緑への慈しみを21世紀に羽ばたく子どもたちに託そうとの願いがこめられている



ガス製造プラント





球形ガスホルダー











向島町ガスサービスセンター「ガスライフ」

平成町庁舎



1999（平成11）年新築



中圧ガスホルダー（球形）



LNG貯槽



LPG貯槽

貯蔵設備

ガス発生設備





LNG気化器



バックアップ計装盤



整圧器（ガバナー）



自家発電設備



付臭設備

営業推進課

営業グループ





ガス器具利用促進会議





機器の説明・販売

主な業務内容

- 家庭用ガスの利用促進に関すること
- 家庭用ガス消費機器及びプロパンガス消費設備の安全使用に関すること
- 業務用・産業用ガスの利用促進に関すること
- 業務用・産業用ガス消費機器及びプロパンガス消費設備の安全使用に関すること
- 課の庶務に関すること

料金グループ





料金の端末操作



検針



請求書の仕分け作業



主な業務内容

- ガス料金等の徴収に関すること

総務課





書庫にて資料収集



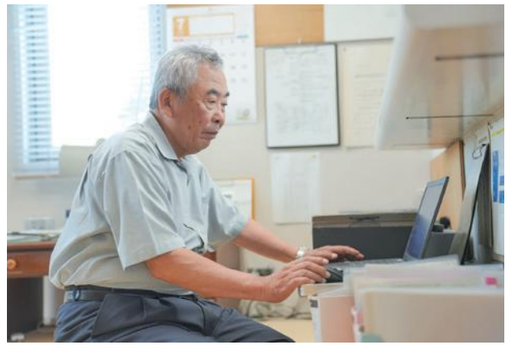
入札

主な業務内容

- 人事、給与、服務、厚生福利、職員研修及び労働安全衛生に関すること
- 予算の編成、調整及び執行管理に関すること
- 決算及び定期監査に関すること
- 現金、有価証券等の保管及び出納に関すること
- 収入及び支出に関する書類の審査並びに証書類の整理保管に関すること
- 企業債及び一時借入金に関すること
- 議会及び秘書、渉外並びに条例、規程その他法令に関すること
- 業務状況の報告及び公表に関すること
- 重要施策等の企画に関すること
- 料金制度及び約款に関すること
- 広報に関すること
- 入札に関すること
- 事業資産及び庁舎管理に関すること
- 物品の出納・保管及び一般経費の支払に関すること
- 公印、文書管理に関すること
- 情報公開に関すること
- 株式会社松江ガスサービスに関すること
- 課の庶務に関すること

守衛室











主な業務内容

- 庁舎内、構内及びガス製造施設の巡回（不審者、不審物、施設の異常（器物破損、ガス漏洩、火災等）の発見）
- 保安当直者不在時の電話受付（一次受付）
- 来訪者受付（展示場の場所案内、料金収受、郵便物受付）
- 施設の記録管理（当直日誌の記入、引継ぎ書類の確認）

供給保安課

建設技術係







ガス導管の登録



工事完了後にガス管の接続・布設状況、
圧力試験結果などの最終確認を行う竣工検査

主な業務内容

- 保安の教育訓練に関すること
- 都市ガス供給施設（昇圧供給装置を除く）、簡易ガス供給施設及びプロパンガス供給設備の工事に関すること
- ガスメーターに関すること
- マッピングシステムに関すること
- 承認工事業者及び簡易内管施工登録店に関すること
- 課の庶務に関すること

設備管理係





定期保管調査時の機器説明



カート式ガス検知器によるガス漏洩調査



緊急ガス遮断装置（火災などの緊急時にガス供給を瞬時に遮断し、
事故を防ぐための装置）の説明



保安・緊急出動用車両

主な業務内容

- 都市ガス供給施設（昇圧供給装置を除く）、簡易ガス供給施設及びプロパンガス供給設備の維持に関すること
- 都市ガス供給施設、簡易ガス供給施設及びプロパンガス供給設備の保安業務に関すること
- ガス消費機器及びプロパンガス消費設備の保安業務に関すること

供給保安課

生産管理係





施設内点検　気化器・計器類



施設内点検　制御盤



液化天然ガス（LNG）受け入れ作業



主な業務内容

- 都市ガス製造施設に関すること
- 都市ガス及びプロパンガスの品質管理に関すること
- 簡易ガス特定製造所、特定供給設備及び貯蔵設備に関すること
- 都市ガス及びプロパンガスの原料に関すること

まちに、いいこと、プラス!

松江エナジープラス



松江エナジープラス株式会社は、2025年5月14日に設立し、準備期間を経て、2026年4月1日に松江市ガス局より事業を引き継ぎます。松江市の貴重な財産であるガス事業を引き継ぐ責任を認識し、当社の経営理念「総合エネルギー・生活総合事業を通じて地域の皆様に安心・快適な生活を提供するとともに、地域経済および社会の活性化・脱炭素推進に貢献する」をベースに、お客さま・地域経済・松江市の三方にメリットをもたらす組織を目指し、地域の発展に貢献していきます。







松江エナジープラス株式会社

代表取締役	倉津　克典
所在地	島根県松江市平成町182番地42
電話番号	0852-22-0500
設立年月日	2025年5月14日
主な業務	都市ガス事業、簡易ガス事業 液化天然ガス・液化石油ガスの製造及び販売 ガス機器、空調・給排水設備機器の販売、 保守、管理及び賃貸

防災訓練：地震時の訓練



地震時の初動対応



ガス供給停止を想定したバルブ操作



被害状況の受付



情報共有のため受付票で管理

防災訓練：サンドブラストが原因の差水による供給不良の対応訓練



復旧対応訓練：情報収集・伝達訓練



初動訓練：圧縮天然ガス（CNG）設置等・緊急時対応訓練

施設見学（向島町ガスサービスセンター「ガスライフ」）





床暖房



ガス機器



省エネシステム

施設見学（平成町）



冷熱実験



天然ガス自動車

職場体験







ガス機器を使用した料理体験





ガスコンロ改造



天然ガス説明



液化天然ガス（LNG）受け入れ作業



ガス導管調査



一口コンロ改造



更生修理工法



液化石油ガス（LPG）バルク施設



PE 管の融着



天然ガス PR 資料作成



発表会

ガス展の歴史



向島町ガスサービスセンター「ガスライフ」



2013年は平成町庁舎で開催



ガスレンジャー登場（クリーングリーン・パワーレッド・セーフティーイエロー）



パワーレッドは特に人気



天然ガス自動車「ADバン」



水素自動車「ミライ」

ガス機器展示



温水床暖房・浴室暖房乾燥体験コーナー
（向島町ガスサービスセンター「ガスライフ」）



ガスファンヒーターなどの暖房機



エコジョーズ



エネファーム



乾太くん



ビルトインコンロ・テーブルコンロ

案内チラシ















ガス展の歴史



くにびきメッセ 大展示場



平成町庁舎でのガス展



住設メーカー様とリフォーム相談会をコラボ



ガス工事のよろず相談も



開場前にガス機器メーカー様と一緒に朝礼



12月の開催ではサンタクロースが登場

最新コンロで料理実演・体験コーナー





最新コンロで料理実演



料理教室



コンロの簡単レシピを配付

ステージイベント



















コロナ禍による
異例の紙上・WEB開催

来場記念品の受取や
機器の販売・抽選を
WEBサイトで行った。

ガス展の歴史

キッズコーナー



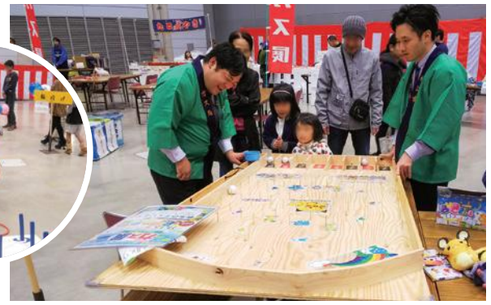
お菓子釣りゲーム



段ボール迷路を脱出せよ！



スーパーボールすくい



運試しスマート ボールはオリジナルで作成



マジックプレートに夢中



天然ガスの特徴を冷熱実験でPR

飲食・物販コーナー









来場記念品・ご成約抽選会





















全国ガス野球大会





















中国四国ガス親善野球大会





















奉仕活動・レクリエーション

奉仕活動





ボーリング大会





松江市職員祭





あじ子釣り大会









花見



松江市ガス事業譲渡式

令和8年3月27日（金）
ホテル白鳥 鳳凰の間にて



監督官庁や各団体関係者など40名余りを招いた



松江市長　上定 昭仁



松江エナジープラス株式会社
社長　倉津 克典



松江市ガス事業管理者
ガス局長　山内 政司



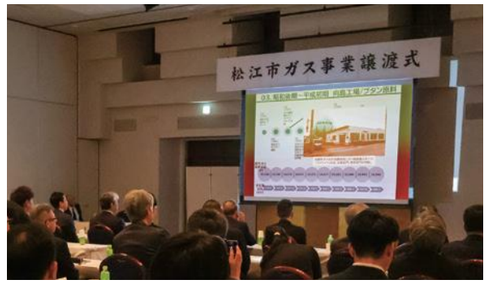
経済産業省中国経済産業局
局長　林　揚哲



一般社団法人 日本ガス協会
地方部長　西山　卓



松江市議会
議長　野々内　誠





松江ガス局 次長　吉岡 義洋による
本市ガス局のあゆみを解説





松江エナジープラス株式会社（譲受会社）
取締役経営戦略部長　若狭 純一



松江市ガス事業関係者・譲渡者（市）及び譲受者による記念撮影

平成と令和を振り返って



廣江 朝夫

ガス事業管理者 ガス局長

［在職年月］
平成6年4月～平成10年3月

一番の思い出

一口に言うと、熱量変更をするのかしないのかという判断を問われました。松江市のガスは、それを行うならば新しく施設から造らなければならないため余計に費用がかかるのです。先輩方も内部ではいろいろと協議をされており、私が4月1日に辞令をもらってから4月5日に中国部会があるので広島ガスに行ってくださいと言われたのですが、辞令が出たばかりなので何の事であるかも分からない状況でした。そこで松江市は熱量変更をやらなくてはいけないが、まだ市長との協議が終わっていないため、本日から勉強させてもらって、出来る事から市長と協議をして松江市の方針を決めて報告させていただきますと申しました。

●次長の補足説明

日本ガス協会の中国四国部会の中で、そこのトップである広島ガスから、まず熱量変更するのかしないのかの話と、あとは共同化、いわゆる中国管内の人材を出し合っての共同化に参画されるかどうかという2つの命題を辞令早々に宿題を出されたという事です。

4月7日には米子の、山陰ガスの部会に行き、4月中は高カロリーに向かっての会議が5回ありました。5回も会議に出ると早くしないといけないという事が分かるわけです。

当時の市長は宮岡寿雄市長で、平成5年の10月に市長になられて、前の石倉孝昭市長とどんな話になっていたのかは知りませんが、宮岡市長と「ガス収入の何倍を投資するのか?」という話になり、3倍では足りませんと言ったら、総売上の3倍も投資して大丈夫なのかと、一般的には聞いた事がないと言われました。そのため、施設を全部替え、売却する想定によりギリギリで行けるという判断をして、それを市長に投げかけた事もありました。

当時、湖南中学校の2分化という話や斎場の話が出た時、ガス局の施設の場所はどこが良いかという話になり、その2箇所の近くであったこのエリア（クレアヒル＝平成町）に目をつけました。向島町の施設の様に商業地域の中に工業が無いように、要するに用途姿勢を明確にする手立てとして、平成団地を挙げました。団地の造成計画のなかで現ガス局の下に池があり、その池を土壌改良して、本当は道路からホルダーが隠れるようにする計画がありました。

●次長の補足説明

景観上、ホルダーが見えると「危険」なイメージを抱かれる危惧から、本来は隠したかったが、平成団地のための貯水池を造らなければならないため、その計画は断念して、そのかわり植樹して隠すような（見えづらくする）現状の形になった。



思い返せば、私の4年間は熱量変更の計画一筋でした

熱量変更の話を一緒になりまとめていただいたのが、宮岡市長の時の助役で、私が市長に説明するのを、その方が聞いていて「市長を説得するには自分が動かないといけないな」と思い、助役は通産局に行かれたそうです。そこで全国のエネルギー対策として、熱量変更の促進センターが出来ていることを知り、これは絶対にやらなければいけない事だということを認識された様でした。その後、私と一緒に広島に行ってもらい、話を聞いて、松江の返事が遅いので全体的に共同化を待っている状況という事を分かっていただきました。

それで助役からも市長に「熱量変更は避けて通れない」と話してもらい、基本的には了承となり、施設整備も大阪ガスに指導を受けながら進めていくという方針が出ました。市長を伴って大阪ガスに挨拶に行き、そこで施設建設でお世話になる事、熱量変更の協働についての指導の依頼、それともうひとつは天然ガスの原料を姫路から貰いたいという、この3点を市長の方からお願いしていただきました。

そういう状況の中で4年間準備をしてきたが、一番良かったのは労働組合の皆さんも、熱量変更の必要性を理解してくれて、一丸となって取り組む（用地買収から建設まで）ことが出来た事です。



阪神・淡路大震災応援隊 復旧作業完了の報告

阪神・淡路大震災のはなし

この時は、職員を派遣した事を思い出します。

松江からの応援に大変感謝されました。

当初、鳥取ガスからの応援隊の内容は社長から聞いており、その時の人数が3人だったため3人体制という状況が分かりました。

その後浜田ガスと出雲ガスと相談して、一番優秀な職員を一人ずつ出してもらい（松江からは1人、出雲ガスと浜田ガスから各1人）、松江市ガス局の名前で応援復興隊を編成して作業に行ってもらいました。

私自身、職員達が作業中に寝泊まりしていた所に陣中見舞にも行きました（2月22日）。そこでホテルに泊まるわけにもいきませんので、一緒に雑魚寝で泊まりました。

結果、応援隊の作業も最後まで（※2月12日から3月末の約2ヶ月）続けて、その他にも資材搬入等で数名が応援隊として派遣された事を思い出します。

●次長の補足説明

現地では松江だけが公務員。公務員は行政区域しか作業できないが、局長が責任をとるかたちで参加していました。

最後に、施設移転の計画・準備、熱量変更の計画、そして震災の応援派遣と、今までの管理者にはなかった大きな課題のあった4年間だったと認識しています。

本記事のインタビューは2025（令和7）年8月に行われました。
インタビュー者：局次長 吉岡義洋　　技術専門監 杉村成浩
総務係主任 高見真英

平成と令和を振り返って



仁井 良治

ガス事業管理者　ガス局長
［在職年月］
平成10年4月～平成14年3月

一番の思い出

ガス局の庁舎が向島町から平成町に移り、新庁舎移転の式典を当時の宮岡寿雄市長に同席していただき、行いました。

ガス局は民間譲渡が決定したとのことですが、宮岡市長は民営化を積極的に進めていく考えにはありませんでした。お亡くなりになった後で「松江に虹を架けた男」という遺稿集が発刊されましたが、その中で交通局のバスを例に「街はビルであり、その中を動くバスはエレベーター、有料のものなどなく、バス料金と採算はある程度切り離して考えるべきだ（だから税も使って公営でもよいのだ）」との宮岡市長の持論が紹介されています。

その後、松浦正敬市長になってから民営化の議論が始まりました。松浦市長の最初の選挙で街頭演説がガス局の正面であり「私はここ（ガス局）を民営化します」と真っ先におっしゃり、とても驚きました。

民営化に反対だった私は、何とかして民営化を食い止めたく、当時新潟で開催されたガス業界の公営部会に参加した際、先ほどの本を販売した思い出もあります。その会が終わり、帰松を1日延ばしたのですが、道中、鳥取西部地震が発生しました。倉吉まで何とかして帰りましたが、そこからタクシーで松江まで帰ったことを覚えています。幸い皆さんが心配していた液化天然ガス（LNG）の貯槽タンクが倒れるようことはなく一安心しました。

その後、どうしても松浦市長の考えを変えたいと思い、公営部会の全国大会を松江に誘致しました。大会後の懇談の場で、講師としてお招きした自治省公営企業経営企画室長（当時）で、宮岡市長の時に助役をされていた渕上俊則さんに、松浦市長が「ガス局の民営化については、仁井局長とよく相談してやっていきたいと思います」とおっしゃり、柔軟な考えもお持ちだと感じました。このことも大きな思い出のひとつです。

宮岡市長は民営化には反対だったのですね？

宮岡市長は直接反対だとは言われていません。当時ガス局は黒字でしたので、一般会計からの支援は受けていませんでした。一方、交通局は赤字でしたので、一般会計からの持ち出しが相当ありました。そのような中で民営化の話も多少出ましたが、先ほども言いましたように宮岡市長は「市民の移動手段を税金で援助してなぜ悪いのか」と反論されていました。

これは一例であり、ガスとバスでは違うのかもしれませんが、宮岡市長は、松江市に公営企業が4つもあることを誇りに思い「せっかくあるのだからそれを活かしていこう」という積極的な考えをお持ちの方でした。

熱量変更についてお話を聞かせてください

熱量変更はとても大きな事業で大変印象に残っています。中国地方各社から応援を受けて橋南地区が完了し、打ち上げをホテル宍道湖で行ったと記憶しています。本当に思い出深い仕事でした。

当時のお気持ちは？

地元の有力者からは「危険だ」という意見もありましたが、とにかく何とか無事に転換を完了させるという思いで始め、それがやっと終わり、次にバトンを渡すことができ感無量でした。

局長時代に局舎が平成町に移っています

移転が完了し、宮岡市長に来ていただいた式典は寒い時でした。当時、市長は体調がすぐれず、大丈夫かと心配していました。残念なことにその後に亡くなられ、松浦市長に代わり、とにかく民営化だと言われたこともあり、二重のショックでした。

当時は向島町と平成町と2箇所の製造施設の管理でしたので業務も2倍でした。退任してから向島町の球形ホルダーの解体時に出た廃材で作った文鎮をいただいたことを思い出します。



仁井局長による挨拶（平成12年3月30日新ガス基地竣工式）

他に思い出されるものは？

局長就任後は新基地の建設に始まり、ずっと熱量変更にかかりきりで、とにかく無事に終わらせることで頭がいっぱい一杯でした。それとやはり民営化です。民営化では、電力会社が電化を進めようと色々動いていました。それに対しては強い対抗心があり、電化を進める企業にガス局を譲るのは何があっても阻止するぞと思っていました。

地方公営企業法により市長は設置者であるものの、その経営についてはガス事業管理者に委ねられています。そのような中で26年を経てこの度民営化になるのかと思うと、よくその間頑張って続けてきたなあと思います。もしかしたら松浦市長の時代に民営化になっていたかもしれません。先ほども言いましたが、当時はガス事業は黒字でしたので、色々資料を集めて市長を説得したのですが、なかなか思うようにはいきませんでした。

当時は小泉総理で「民でできることは民で」という社会の流れがありましたが、まだ公営のガス事業も関西方面や松江市、宇部市、中津市、久留米市、佐賀市など、たくさんありました。私は事務系ですからあまりわかりませんが、お客様を一軒一軒回り、ガス漏れがあれば対応するなど職員は大変な業務だったと思います。

それから事務系も含めて大阪ガスで研修を行い、例えば「液化天然ガスが配管から漏れた時には、オムツを濡らしてそれで塞いだら凍って止まる」とかで、実際に作業を行ったことも覚えています。

当時は、熱量変更は危険だとの印象が先立ちましたので、事故が一つあっても大変なことです。「公営でできるのか？」との意見も多数ある中で、職員とともに無事にやり遂げたことが誇りです。民間の事業者からも応援をいただいて、大変な人数で行ったからこそできたと思います。

最後に一言お願いします

ガス局は民営化になり長い歴史の幕を閉じますが、職員が一人たりとも割愛されることなく他部局へ出向し、引き続き松江市政の一翼を担うことができることになり、とても嬉しいです。職員の皆さんの今後の活躍と新会社のスムーズな船出、需要家の皆様への安心・安全・安定したガス供給を心から祈っています。



本記事のインタビューは2025（令和7）年8月に行われました。
インタビュー者：局次長 吉岡義洋　　総務係主任 高見真英

平成と令和を振り返って



福島 祥ニ

ガス事業管理者 ガス局長

［在職年月］
平成14年4月～平成17年3月

私の管理者としての任期は、平成の大合併の直前まででしたので、平成16年度末までで、本来の任期は4年ですが3年間務めました。

一番記憶に残っている思い出は

一番大変だったのは、橋北地区の熱量変更作業です。橋南地区は平成12年に終えていましたので、その4年後に橋北の方に取りかかった所でした。

また、平成14年からガス局に来ましたが、その辞令交付の時に、「何とかガス局民営化の方向を出してくれないか」という事を松浦正敬前市長から言われました。労働組合との色々な問題もありましたが、それはそれとして、全体の方針として民営化するのが全国的な流れになっていましたので、何としても検討委員会を立ち上げなければいけないと思った事が一番印象に残っています。

その後、検討委員会を立ち上げ、部会ごとに色々と検討して、委員の皆さんからも、意見を聞かせていただいた結果、民営化の方向にすべきという事になりました。

個人的な感想はありますか

先ほど言いました様に、職員側の立場もありますので、労働組合からは大変厳しい意見がありました。

●次長の補足説明

民営化すると、自分の職場が無くなり、別の場所に配属されるのですが、そもそも職員はガスの仕事がしたくて入ってきているので、その様なことを想定していなかったのです。

私としては、その様な不安や不満の意見に立ち向かって行かなければならない立場ですから、検討委員会が間に入るとは言うものの、「局長としてどう考えているのか」と言われると、個人の意見を言わなければならないので、検討委員会の発表を待つなどとは、言っていられない状況でした。組合の方の立場もそれぞれあったと思いますが。

当時は他にはどういった動きがありましたか

全国的に、公営だけの組織がありました。まだ16事業者程公営が残っており、西日本は松江市だけでした。民営化と言っても、たくさんの熱量変更を控えて多額投資を行い、相当な負債を抱えていたものを民間がそうすぐには引き受けてくれません。だからそれを何とか、我々の次の次、もっと後の段階でしょうが、少しずつ経営改善していき、「売り頃だ、買い頃だ」というような時期が来たら動き出すと思っていました、結果それが令和8年になったわけです。

大変だったことは

やはり熱量変更事業です。これはガスの事ですから危険なものを扱っている業界ですので、もし事故が一度起これば、信用も一度で吹っ飛んでしまいますから、熱量変更事業というものの将来を見通しながら、16年度に橋北を行い、何とか無事に終わったという事が一番の記憶に残り大変な事だったと思っております。ご承知のように、中四国で13社が一緒に行いましたが、民間の皆様が指導する立場で、我々は乗っからせていただいたという事になります。

それは平成16年の5月に始まり9月に終わりましたが、本当に「何かあったらどうしよう」という事が頭から離れませんでした。全国的に事故に繋がった事はありませんでしたが、それがもし我々の所で起こったら、民営化どころの話ではないのです。

現場で働いていた方はもちろん、私たちの職員も含めて中四国から180人体制で行ったので、戦場という事もないですが、その様な感じがしました。無事故で終わったという事が、ほんと毎時毎日が、私なりに平成16年度、橋北地区の1万1千戸というのが、大変な数字だったのです。

熱変が始まってからの約半年間というのは、大げさなことを言うと、寝る暇が無かった様な、ぱっと夜中に目が覚めて、不安に駆られたりなどありました。私も熱量変更のメカニズムは詳しくは分からなかったですが、うまく切り替えて行くものだなと思いました。全部シミュレーションをして、実際の作業は数ヶ月でも、その準備に1年間位かかっていますから全部まとめて大変な事業でした。

熱量変更調整員について

熱変事業は共同作業なので、我々がお世話になるだけではいけませんし、（我々が手伝ってもらった分のお返しとして、）また派遣していかなければいけません。派遣する皆さんは、ガス局を代表して各地区に出かけていただきました。ですが、やはり派遣される人は心細かったと思います。

知らない土地でアパート暮らしをして、転勤というよりも単身赴任の様な形で、しかも公営から民間の会社に行くのですから、やった事のない事ばかりで大変だったと想像できます。ですが、そういう共同化事業があったからこそ、民間の皆さんの指導や協力も得て、どんどん進めていく事が出来たと思います。

駅周辺のホテルには各地区から来られた調整員の方々が宿泊して、定期的に訪問して激励したりもしました。また、毎日の朝礼なり反省会なりで、改善点をどの様に今後して行くかという様な事を、真剣に討議しておられる。またそれがあったからこそ、無事故で無事終えることが出来たのだと思います。

原料費の交渉

これは大変でした。公営の場合は議会があり、包み隠さず話さなければいけないという事がありますので、割とオープンにすることが多い。ですが民間では、原料の問題が出てきたら、それはもう1円たりとも絶対だめです。1円下げるというのは大変な事でした。

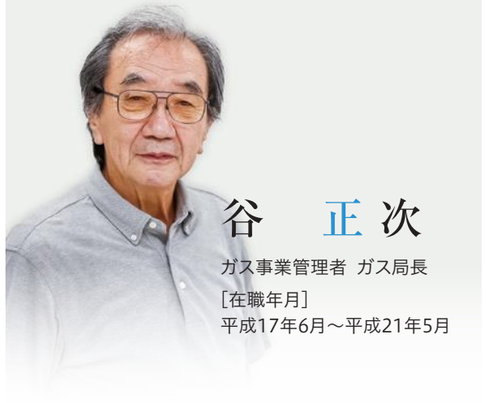
自ら直接交渉に出かけた事もありました。足繁く通い、民間の事は分からないから、とにかく教えて下さいという立場で、そちらも取締役会というものがあり大変でしょうが、こちらは公選で選ばれた議会というものを相手にしないといけない、ひとつ協力してくださいとお願いした事を覚えています。



ガス器具調整作業を視察

本記事のインタビューは2025（令和7）年8月に行われました。
インタビュー者：技術専門監 杉村成浩　　総務課係長 吉田辰洋

平成と令和を振り返って



谷　正次

ガス事業管理者　ガス局長

［在職年月］
平成17年6月～平成21年5月

一番の思い出

在職中の思い出は、何と言っても電化攻勢です。今までは電気とガスが各家庭で住み分けていましたが、非常に電化の攻勢が強くなり、やはり私にとって、当時大口（商業施設）であったところが電気に切り替えられた事です。当時は就任間もなくて、私も技術的な部分で分からないことがある中、いろいろ交渉しましたが、最終的には電気に切り替えられたという思い出があります。

各家庭でIHコンロが流行ってきていて、火は危ないがIHコンロは火を使わないので安心だというイメージで、特に高齢者にとってガスよりも電気に切り替えた方が良いんじゃないかと、（高齢者の）親族の方がその様にされてしまうのです。ただ実際は、当時問題になっていた天ぷら火災などについても、鍋の油に火が入っていくのではなく、一定の温度以上になると火種が無くても燃え上がります。これはガスでも電気でも関係ないのですが、そういう風に宣伝されて、当然その様な時はIHコンロについてもガスコンロについても、きちんとしたセキュリティ（安全装置）があるので問題ないのです。広報の面でも、相手は大資本ですから、宣伝が追いつかないのです。今でも我が家にエコキュートの電話がかかってくる位ですから。ほとんどオール電化にやられたと思います。それがやはり一番残念ですし、当時のガス業界全体が、それに対する対策が出来ていなかったです。振り返ると、それが一番悔やまれます。

局長時代に電化の攻勢が顕著になってきましたか？

その様な感じがしました。就任当初は、ガスも電気も仲良く使い分けしているものだと思っていましたが、給湯器については電気のエコキュートが出てきたり、我々はそれに対抗してエコジョーズを出したりし、競合がありました。

大口についても、今までガス空調を含め全館でかなりの量のガスを使用いただいていましたが、厨房以外を電気に切り替えられましたので、これも大きかったです。最終的には、おそらく価格だったと感じています。

大変だった事業や事柄

在任中は熱量変更をやっていましたので、起債の償還が当時75億くらいは残っていたと思います。それらは毎年償還していかないといけないもので、そうすると会計上は毎年赤字になります。その償還分を営業ではとても補いきれずそれがずっと赤字赤字…と続いて、それを何とかしないといけないと思いながら、半ばどうしようもない部分が、とても苦しかったです。

国策とはいえ、平成16年までの熱量変更で莫大な費用がかかった上に、ガス局の基地も向島町から今の平成町にして、そこで新しいガスタンクや液化天然ガス（LNG）を受ける設備などを造り、沢山の起債の借入れをした事から、当然その償還に向けて営業を拡大しなくてはならないのですが、かなりの借金があるので、なかなか前に出られませんでした。その状態ではまず黒字にはなりません。

それがあるので、新しい事があったり、大きな事業などが出来ない時期ではありました。

局長になられた年の秋に向島が解体になっていますが、当時のことで何か思い出すことは？

もちろんあります。この時にガスタンクが解体されて、これはガス局の象徴でもあるものですから、昔のOBの方々が感傷的になられて、工事の様子をよく見に来ておられた事を思い出します。この時の廃材から記念につくった文鎮は今でも大事にとってあります。

他に思い出されることはありますか？

天然ガス転換をしていた当時は、いろいろな所に職員が派遣されているので、なかなか全員が揃うことはありませんでした。そのため各地へ職員の激励に行かせてもらったり、それも思い出です。

野球～全国ガス野球大会で大阪に行った時の話

（高見）　ガス局野球部は、松江市で開催した中国四国ガス親善野球で活動を終えましたが、この2年前くらいに、谷局長から「全国ガス野球大会に出てもいいぞ」と言われて、初めて出たときの写真がこちらです。

（谷）　その時までは全国ガスには出ていなかった？

（高見）　出ていませんでした。





全国ガス野球大会、応援の様子（左から安井次長、谷局長）

それまで、中国四国ガスの野球大会だけで満足していたのですが、この年はすごくまとまったチームでしたので、その年は中国四国ガスでもかなり上位まで行ったことから、「それなら全国に行ってみたら」と言っていただいて嬉しく思いました。

ガス局は野球が盛ん？

ガス局といえば野球部という感じでした。他のガス事業者との交流という意味合いも大きかったです。

その様な機会を通して、私としても職員さんたちとはなるべく交流するようにしていました。

本記事のインタビューは2025（令和7）年8月に行われました。
インタビュー者：総務課長 杉原 稔　　総務係主任 高見真英

平成と令和を振り返って



松本 修司

ガス事業管理者 ガス局長

［在職年月］
平成21年6月～平成25年5月

一番の思い出

私が着任する時は当時の松浦正敬前市長から、「とにかく民営化してください」と言われて、それを至上命令とし、ガス局へ来ました。そこで一番記憶に残っているのが、一言で言うと、「民営化っていうのは難しい」という事です。

当時のガス局は年間のガス売上が約20億円で、都市ガスのお客様がだいたい約1万4千件くらいだと記憶しています。

その約20億円は簡易ガスや、プロパンガスのお客様が当時、合わせて3千件弱位あり、それも全部含めた売上金額です。

それに対して負債は約50億円を超える金額が残っていました。

そこで民営化にあたり、ガス局の事業価値はいくらであるのか調査をしたところ、その当時の事業価値以上に負債があるという事が分かりました。この結果から誰も手を挙げようという事にはならなかったのです。

私としてはそうは言っても何にもしないわけにはいきませんので、私の代では（民営化は）出来ないだろうという見通しを立てながら、一歩でも民営化に近づけるという事が役目であると思いました。

その時に子会社の、松江ガスサービスに少しずつ業務委託を増やして、ガス局のスリム化を図っていくつもりでいました。

もちろん最終的にガス局を民営化すればいいという事ではなくて、公営であるために、ガス事業以外は出来ないのです。民間のガス事業者は、例えば譲渡先になった伊丹産業は、いろいろな事業をされているような会社ですし、本当は給料がある程度高くて、誰もがあの会社に入りたいな、というような会社にならないといけません。そのためには、ガス局は基本的に約20億円の売上のある会社ですから、それをベースに大きくなってもらいたいという気持ちがありました。

その様な事から子会社に業務を少しずつ移していく方向でしたが、その前に松江ガスサービスは立て直しが必要な状態であり、これも難儀いたしました。いろいろな事がありましたが、何とか株主構成を変えました。

社員には「しっかり資格を取らないといけない」と言いました。ガス局が民間譲渡となった時は、そこの社員の一人になるかも知れないのでと。

●次長の補足説明

ガス事業に必要な資格があれば、子会社としてガスの器具の取り付けだけではなく、ガス事業の根幹に携われるよう、そのために資格取得を促しておられたという事です。



在職中の松本元局長（右）

大変だった事業や事柄について

ガス事業法というのは、都市ガスを供給するには供給管が必要で、これはガス事業者の所有物です。それがお客様の敷地を境界に、そのガス管はお客様の持ち物（資産）となるのです。つまりお客様にガス管の更新期が来た時には、その費用の負担はお客様となるという法律なのです。

私はそれはおかしいと、その様な事ではお客様が取れないのではないかと。そこで私が考えたのが、地方自治法に、寄付または補助という条文があります。これは、公益上必要があると認められる時には、補助することが出来る条文なのです。

公益上必要があるという事は、公営事業であるガス事業が継続していくためには、お客様が減っていったのではアウトですので、公益上必要があるという解釈をして、経年管更新工事費の一部を補助する制度を創設し、お客様所有のガス管（灯外内管）の老朽化対策を進めました。



職員さんとの思い出

基本的にはあまりガスのことは詳しくありませんし、それまで本庁（市役所）勤務でした。ガス局に来た時、ひとつ体験してみようと思い、私も一緒になってツルハシ、スコップなどで配管工事をした経験があります。1回だけですが初めての試みでした。配管工事をやったといっても、私は穴を掘っただけです。けれども、それはとても印象に残っています。

他に印象に残っていること？

本庁との人事交流、これを進めるように着手したのは、私の時代からでした。将来的なことを考えると、ずっとガス局に居て、そこから違うセクションに変わると大変ですし、本庁の勤務だと3年から5年で異動し、まったく違う仕事をしますから。ガス局の職員はガス事業はプロですけど、他のことはあまり経験がないので、対応しにくい人もいます。そういうことも含めてかなりの人数を本庁と人事交流しました。それ以降は本庁勤務を経験している職員も増えました。それも民営化に向けたひとつの取り組みだったわけです。

本記事のインタビューは2025（令和7）年8月に行われました。
インタビュー者：総務課長 杉原 稔　　総務係長 吉田辰洋



松江市ガス95周年史｜特別企画 座談会｜
熱量変更事業を振り返って

松江市ガス局の大規模事業「熱量変更事業（熱変）」は、
エネルギー効率を向上させるために重要な役割を果たしました。
事業に携わった皆様に事業の実施過程やその成果、思い出などを語り合っていただきました。



平成12年橋南の熱変では、供給チームの組責任者として従事。平成16年橋北の熱変では、供給チームの統括責任者として従事。その後、供給保安課長、ガス局次長、技術専門監として従事し、退職後、再任用職員として現在に至る。

小川　幸夫
1983年4月～在職中
供給保安課　設備管理係



平成12年橋南の熱変では、調整チームの調整責任者として従事。平成16年橋北の熱変では、運営チームの調査･運営リーダーとして従事。その後、営業サービス課料金係長として従事し、平成24年4月1日付で、松江市市長事務部局へ出向。現在、松江市健康福祉部保険年金課収納係長として現在に至る。

隠岐　司
1988年4月～2012年3月
松江市　健康福祉部　保険年金課　収納係

平成12年橋南の熱変では、運営チーム推進グループの機器サービス担当として従事。平成16年橋北の熱変では、運営チームの機器サービスリーダーとして従事。その後、供給保安課課長補佐（設備管理係長事務取扱）として現在に至る。

小笹　正己
1989年4月～在職中
供給保安課　設備管理係



平成12年橋南の熱変では、運営チーム推進グループの機器サービスリーダーとして従事。平成16年橋北の熱変では、運営チームの推進グループ責任者として従事。その後、総務係長として従事し、平成23年4月1日付で、松江市市長事務部局へ出向。現在、松江市防災部防災部長として現在に至る。

能海　朋之
1986年4月～2011年3月
松江市　防災部



平成12年橋南の熱変では、供給チームセクター管理担当として従事。平成16年橋北の熱変では、供給チーム中･低圧パージ担当として従事。その後、営業推進課料金グループリーダーとして現在に至る。

室谷　賢治
1993年4月～在職中
営業推進課　料金グループ



平成12年橋南の熱変では、運営チーム推進グループ特別下取りリーダーとして従事。平成16年橋北の熱変では、運営チーム推進グループ特別下取りリーダーとして従事。その後、ガス局次長（営業推進課長事務取扱）として現在に至る。

吉岡　義洋
1993年4月～在職中
営業推進課

平成12年橋南の熱変では、運営チーム総務グループ広報･受付担当として従事。平成16年橋北の熱変では、調整チーム調整責任者として従事。その後、営業推進課課長補佐（営業グループリーダー事務取扱）として現在に至る。

西尾　哲也
1993年4月～在職中
営業推進課　営業グループ



平成12年橋南の熱変では、料金係員として通常業務に従事。平成15年に山口合同ガスへ調整員として派遣。平成16年橋北の熱変では、運営チーム総務グループの広報･受付担当として従事。その後、総務課主任として現在に至る。

高見　真英（司会）
1995年4月～在職中
総務課　総務係



平成12年橋南の熱変では、運営チーム推進グループ特別調整リーダーとして従事。平成16年橋北の熱変では、運営チーム推進グループ特別調整リーダーとして従事。その後、供給保安課建設技術係長として現在に至る。

山田　忍
1996年4月～在職中
供給保安課　建設技術係



令和７年8月２９日（金）本市ガス局2階会議室にて

司会（高見）｜ 本市ガス局も来年の4月に民営化いたします。最後に、記念となる周年史を作りたいという事で、お集まりいただきました。熱量変更（略して熱変ねっぺん）について皆さんのお言葉を、活発に言っていただけたらと思います。

それでは、吉岡次長よりご挨拶をいただきまして座談会を始めたいと思います、よろしくお願いいたします。

吉岡｜ 皆様、貴重なお時間どうもありがとうございます。今回、平成から令和にかけての周年史を作るにあたり、なかでも熱変ということが一番大きな出来事だったと思います。当時のスペシャリストの皆さんのご活躍があって成功したという事もありますので今日はそれを題材にした座談会という事でガス局の最後を締めくくる企画となります。時間も限られていますけど、ざっくばらんにやっていただければと思いますので、どうぞよろしくお願い致します。

司会（高見）｜ それでは座談会を始めたいと思います。本市ガス局は平成12年に橋南地区の熱変、平成16年に橋北地区の熱変を行い、クリーンな天然ガスに切り換えたところでございます。その事業は簡単なものではなく供給チーム、運営チームなどの各チーム、また他事業者（中四国の共同化のガス会社の事）に応援いただき、なんとか完遂したところです。それでは、小川さんから順番に当時の担当されていた業務についてお聞きしたいと思います。

小川｜ 当時はですね、供給チームの統括責任者をやっていました。細かいことはまた思い出しながら喋ります。



隠岐｜ 平成12年の橋南のときに調整チームの責任者をやっていました。平成16年のときは、運営調査の方で仕事をしていました。正直、20年も前の話なので、調整員の方々の顔と名前は覚えているんですけど、実際に自分の仕事についてはまったく覚えていなくて、特に問題なく進んだので覚えていないのかな、という気がします。事前にもらった資料も見たんですけど、全然思い出せないので、みんなの顔を見て、話して思い出せればいいなと思っています。



小笹｜ 平成12年の橋南の熱変のときは、能海さんの下で機器サービスの担当をしていました。平成16年橋北の熱変では、機器サービスのリーダーとして当日の調整員さんの仕事がスムーズに進むように事前準備したりとか、当日の補助（バックアップ）などをしていました。今日は座談会ということで、記憶を掘り返しましたけど、なかなか思い出せませんでした（笑）。皆さんにお願いしたいと思います。



能海｜ 私は平成12年橋南の熱変の立ち上げの前から携わっていまして、とくに橋南の方は、セクター設計からやっていて、それがけっこう苦労したかなと思っています。実際、橋南の熱変が始まった時は、最初は調査に携わっていましたけど、途中から機器サービスでした。大阪ガスさんと一緒に、いろいろと指導を受けながら進めていました。橋南は集合住宅や一般住宅などの給排気の改善、手直しなどをガスサービスさんにお願いしてやってもらったりした事を記憶しています。

あとは転換時に調整しにくいところの物件を見たりしました、それをどうしたら改善できるかなども含めて、大阪ガスさんの指導を仰ぎながら進めていったことも記憶しています。

あとは部品調達の関係ですね。これは広島ガスさんから部品提供を受けてましたが、部品（古かったりして）が無いものがあった時は大阪ガスさんの在庫や、古いものを組み合わせて作っていました。橋南はそんな感じです。橋南は上に責任者として昌子さんがおられたので、その下でいろいろさせてもらいました。それで橋北になると、推進グループの責任者になりました。調査から特別調整、機器サービス、特別下取りまでをまとめさせてもらいました。皆さんにしっかりやっていただいていたので、順調に進めることができたと思います。橋北で一番気になったのは、途中でガスサービスから応援いただいた方（松坂君）が亡くなられたのが非常に残念だった事を記憶しています。橋北は広島ガスさんメインで応援に入ってもらいました。あと調整側の方にもお世話になって、仲良くお話をさせてもらった事を覚えています。





室谷｜ 平成12年の橋南、平成16年の橋北ともに転換供給という所で、小川さんが責任者で、その下のスタッフをしました。セクター設定から、供給・遮断テスト、それから転換当日のパージ、実施計画書の作成も含めて業務にあたりました。当時、大変だったのは、大阪ガスの方が非常に厳しく、絶対に事故を起こしてはいけないという事で、特に供給はガスを放出しますので、ミスがあれば事故につながります。そのため、常日頃から無事故完遂、安全第一をたたき込まれ、非常に良い経験をしました。供給遮断テストではその週のうちに、両方のテストを行いました。

供給テストというのは、旧ガスと新ガスの両方を供給しないといけないので、両方ともガス圧力をもたせるよう、事前の確認をしていました。

遮断テストというのは、ちゃんとセクターが分かれているかどうかの確認をを行うテストで深夜に行っていました。

とにかく毎日忙しく、テストの次の日には報告書の作成、次の供給テストの準備をやらないといけないので、非常に大変だったなあという思いもあるんですが、大阪ガス、広島ガスの方に助けていただいて、なんとか無事故完遂でき、非常に良い経験をさせてもらったと思います。転換供給で、バルブの事や供給圧の事なども含めて非常に勉強になり、その後の業務に活かすことができたと思っています。

吉岡｜ 私は平成12年の橋南、それから平成16年の橋北の熱変両方とも、運営チーム推進グループ特別下取りのリーダーとしてやっておりました。特別下取りというのは、調整の一環なんですけど、調整する前に器具を売るという事で、熱変に入る前から巡回をして予約をとりながら、お客様に対応していました。

当日も、調整員さんに販売も協力していただき、平成12年の橋南のときは約1億円の売上、平成16年の橋北のときは約1億1千万の売り上げで、それだけ安全機器を普及できたというところで、良かったと思います。

エピソードとしては、平成12年のときに、同じ特別下取りチームだった、今はOBの方が定年前で熱変業務に携われて大変かなと思ったんですけど、男気を見せられて先頭に立って特別下取りのチームを引っ張っていただいた事は今でも印象に残っていて、思い出すと涙が出そうなんですけど、そういった方の背中を見ながらやれたのは嬉しかったと思っております。



西尾｜ 私は平成12年の橋南は総務グループで主に広報を担当して、平成16年の橋北には調整の責任者として、調整員のまとめ役（組責）をやらせていただきました。平成5年に吉岡さんと室谷さんと一緒にガス局に採用になったんですが、まさにこの熱量変更するために採用された年代の職員でした。入ってからはガスの事をまったく分からない中で、一大事業である事を先輩方から伺っていたんですが、全然イメージができていませんでした。ただ、橋南の熱変が始まると、調整員だけでも100名近くの人を受け入れをして、いろんなガス会社の方と多くの出会いがあった事は思い出深いですね。

自社の熱変だけでなく、山口合同ガスさんへ調整員として派遣をしていただきました。それまで、仕事をしながら涙を流すという事は無かったんですけど、この熱変の応援に行っている時に、それが2回ありました。1回目は最初に慣れてないOJTが明けたところですごく大きな団地で作業負荷が非常にあったんですけど、やってもやっても担当する仕事が終わらない。おまけに年下の調整員（経験はそちらの方が長いんですけど）に助けてもらいながら、どうにか終わりましたが、そんな情けない自分にガス器具の調整作業をしながらボロボロと悔し涙をこぼしてました。2回目は、熱変をみんな力を合わせて終わったというところで嬉し涙がジャージャー流れてきて、非常にいい思い出になりました。



山田｜ 自分は平成12年、16年ともに業務用のお客様を担当する特別調整担当に所属していました。12年については大阪ガスさんの指導のもと、平成16年については広島ガスさん、山口合同ガスさんの応援をいただいて特に時間的制約のかかるお客様の対応をしていました。実際にセクターが2.5日しかない中の本当に少ない3時間や半日など限られた時間の中で調整員がガスを切り換えないといけない器具を事前に分解したり調整しやすいように確認をしていました。お客様と交渉してなんとか時間を延ばしていただくというような折衝をチームでやっていました。しんどいとかそういったことは特にはないんですけど今思いだすと、限られた日程で都合のつかないお客様に対して交渉をして、何とか乗り切ったという思い出があります。



2000（平成12）年
橋南地区の熱量変更について

司会（高見）｜ それでは、橋南地区については20数年前という事で、覚えてないところもありますが、一番印象に残っている思い出や大変だった事、あとは職員との苦楽など、何か印象に残っている事を聞かせてください。

西尾｜ 組責は調整のまとめ役なので、基本的には当日までに全部の準備を整えて、調整員に部品を替える状況にすることが仕事だったので、調整員にはしっかりやってもらうのですが、大切なのはそれまでの調査だったり、バルブでちゃんと区切って、ガスがこしてないかとか、運営だとお客様の情報が間違ってないかとか。何かあれば火災だったり事故になったりするので。そこの準備が万端だったからこそ、当日は責任者としてする事がなかったですね。

なので昼に調整員の皆さんが帰ってくる時に、組基地にお弁当にプラスでカレー汁とかを作っていました。

山田｜ 仕事の最中に味噌汁を作ってとか電話してくるんですよ。

一同｜ 笑

司会（高見）｜ 小笹さんは何かありますでしょうか？

小笹｜ 高所作業をしている方が、給湯器の追い焚き配管のロウ付けをやっていた時に、その下で作業されてた方の背中にロウが落ちて「熱っつ！」って。それで上にいた方が「下で何しとうね！」と逆ギレしたと言ってました。

あとは医療施設で高所作業車を使わないと作業箇所にアクセスできないというケースがあって、初めて高所作業車にのって作業をしたんですけど、機械トラブルで降りてこれなくなって、取り残された方がいたので、慌てて助けに行ったという事がありました。調整作業していた時に、「大変だね」と抹茶をたてて、調整員をもてなしてくれた方がおられて、調整員がすごく感激したという話もあったそうです。

司会（高見）｜ 能海さんは何かありますか？



能海｜ 夏場のすごく暑い時に調査をしている時に、お客さんの所に行くと、暑いからといっていろんなものを差し入れしてもらって、それが非常に嬉しかったというのは記憶しています。あと、個人的にいうと、ちょうど下の子が生まれる前で、その調査の年の8月に生まれたんですけど、たまたま調査に行った時に「もうすぐ生まれるんです」とその話になって、そこの旦那さんが、どっちが生まれるか占ってあげようとなって、「次は男の子だよ」と言われて、実際に男の子が生まれた、ということもありましたね。

あとは集合住宅の空き部屋も調整しないといけなくて、その家主さんとの調整というか、交渉が結構大変だったなあという気がしました。あとは特に苦労したことはなかったですね。

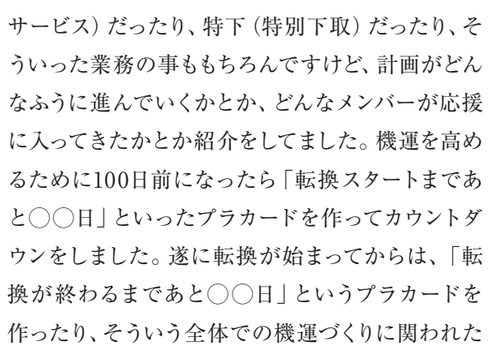
室谷｜ 周りの方のおかげで、熱変業務は大変だったけれども、ある意味で楽しく仕事ができたかなと思ってます。それから印象深かったのが、大阪ガスの方が来られたんですけど、最初に無線のやり取りの練習というか、テストをやったときに当時、供給保安の部署にいた方に手伝ってもらったんですけど、非常に緊張してて、「宇賀ガバナー」のことを「ウガガガガー」と言ってて、それが非常に印象に残っています。

一同｜ 笑

吉岡｜ あんまり面白いエピソードはないんですけど、平成12年の特別下取りというガス器具を下取りするなかで、まさかあんなに忙しくなるとは思っていなくて、その当時は手書きの請求書だったんですよ。それを次の日のセクター分を用意しないといけないんですけど、いっぱい書かないといけなくて、その日のうちになかなか帰れない。それで急遽組織図には入ってない方に2セクター目か3セクター目から入ってもらって、それで凌いだということがありました。それでも転換当日はもう引く手あまたで、見積もりをお待ちのお客様が大変多くなり自らも見積もりに行って、事務所の特別下取りの担当が空っぽになるくらい出てたというのがひとつあったのと、あとはちょうど自分の2番目の子どもがこの時生まれたんですけど、忙しすぎてなかなか名前を考えられなくてですね、それで私がファンだった女優さんの名前を安易に付けてしまったというのが…

その当時、子どもが生まれた方も多くて、出産ラッシュがあったことを覚えています。

一同｜ へぇ〜！



定期的に発行した熱変レポート

西尾｜ 自分は橋南の時は広報担当だったので、まずはお客様に対して熱量変更を分かりやすく伝える仕事と、もうひとつは、「熱変レポート」を定期的に発行しました。この目的は、そもそも熱変というのは何をするのかということを誰も分からない状態でスタートするにあたって、いろんな情報をみんなが共有して、組織として成功に導こうというのがひとつの考えでした。思い出してみると、（熱変開始の）3年前ですかね、2000年の前の1997年から発行していて、この熱変レポートを1期の時が21号まであった中では、たくさんの記事を書きました。転供（転換供給）もそうですし、技サ（技術サービス）だったり、特下（特別下取）だったり、そういった業務の事ももちろんですけど、計画がどんなふうに進んでいくかとか、どんなメンバーが応援に入ってきたかとか紹介をしてました。機運を高めるために100日前になったら「転換スタートまであと○○日」といったプラカードを作ってカウントダウンをしました。遂に転換が始まってからは、「転換が終わるまであと○○日」というプラカードを作ったり、そういう全体での機運づくりに関われたというのは、非常に印象深かったです。そういう意味では広報という立場はいろんな仕事が見れたと思います。皆さんみたいに深くはないんですけど、全体を俯瞰して見れるようなポジションで、それをさらに記録に残すことは、いま見返してみるといい仕事をしたなと思います。

最初の方は文字ばっかりなんですけど、だんだんと写真も入ったり、ちょっと詳しいことも載せたり、そんな感じで見てみると…多分こういうものが残ってなかったら、お話をしてもなかなか出てこないと思うので、良かったなと。

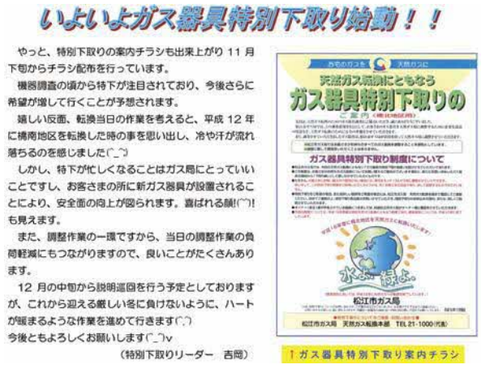
それから熱変が終わってから向島の基地を閉める火納め式を行いましたが、この熱変レポートに携わっていた関係で、火納式の時に皆さんに配る





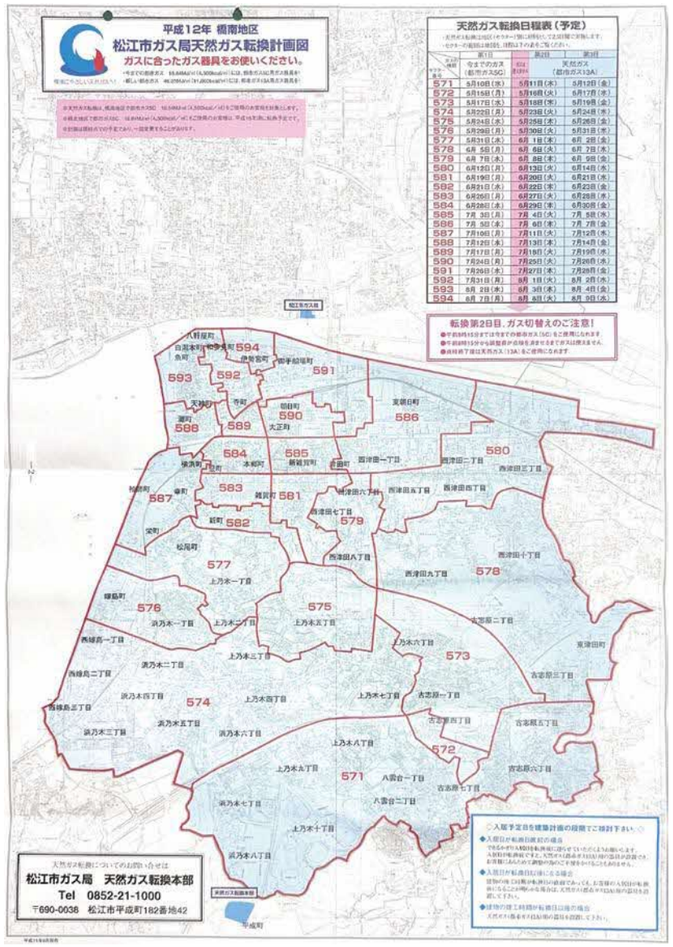
「ありがとう向島！75年間の歴史が今、閉じる…。」
平成16年11月25日発行

冊子を作らせてもらったことがあります。これは熱変をするもっと前の操業前からの歴史も勉強させていただいて、熱変それから新しい基地に移るまでのひとつの時代をコンパクトにまとめました。これもガス事業に対する愛着を感じた仕事だったなあと思っています。



↑ガス器具特別下取り案内チラシ

第26号熱変レポートより



平成12年 橋南地区 天然ガス転換計画図

今回、こうやって機会を作ってもらえて、周年史としてまとめてもらえるということは、非常に大変だと思うんですけど、これがまた10年後20年後に開いてみると、手元に残っているものを見るだけで話ができるのは良いなと思いますね。

山田｜ 橋南が始まる前に、出雲と鳥取で熱変が始まって、その後、山口があって…その、出雲からずっと熱変をしているような感じだったのかなと思っています。基本的に橋南の時にはリーダーも別におられてフリーに動かさせてもらいやってきたので特にしんどいという思いはなかったですね。たまにさっき話に出ていた調整員の方から忙しい中、味噌汁を作れと電話がかかってきたりとか…

一同｜ 笑



山田｜ 出雲からの調整員がずっと流れてきて、そういった繋がりもあって、楽しくこの12年の熱変作業をさせていただいたなあと思っています。

司会（高見）｜ 山田さんが行かれたのは出雲からですか？

山田｜ 出雲から鳥取、松江があり山口の立ち上げで終わりました。そして帰ってからは「イオン」の転換をやれと言われて。終わったら次は橋北の準備に入った感じでしたね。

高見｜ 西尾さんは山口ですか？

西尾｜ うん、山口合同ガスだけだったね。徳山から防府、山口、下関でした。そしてさっきの山田さんが言われたとおり先発隊で調整、共同化で入っていて、だからもう“松江の山田”というブランドが付いてて、非常にやり易かったですね。「松江の山田はできるな！」みたいな感じで。調整員だと分かるんですよねその力量が、やっていると。だから後から行った者としては助かった面もたくさんあったと思います。

2004（平成16）年
橋北地区の熱量変更について

司会（高見）｜ 小川さん橋北はいかがでしたでしょうか。

小川｜ 橋北では、熱変前に山口合同ガスの…、多分下関だったと思うが、供給遮断テストの作業確認の出張があり、行きは広島ガスメンバーと合流後新幹線で行って、行きは良かった。下関に着いて、供給テストの作業を夕方から夜9時頃までまでやり、ちょっと休憩して、そのまま遮断テストを朝までやりました。その後、帰りは総務課の旅費計算の都合で、新幹線じゃなくて、どこかから山陰線で帰れと言われて、手当もなく、「なんてことするんかい！」って、そんな思い出があります。

一同｜ 笑

司会（高見）｜ 山口で一通り作業を見られたのですか。

小川｜ 橋北は、広島ガスと山口合同ガスに手伝ってもらうので、それぞれのやり方の違いを見ておくようにと言われていました。

司会（高見）｜ 隠岐さんは橋北では運営ですがいかがですか。

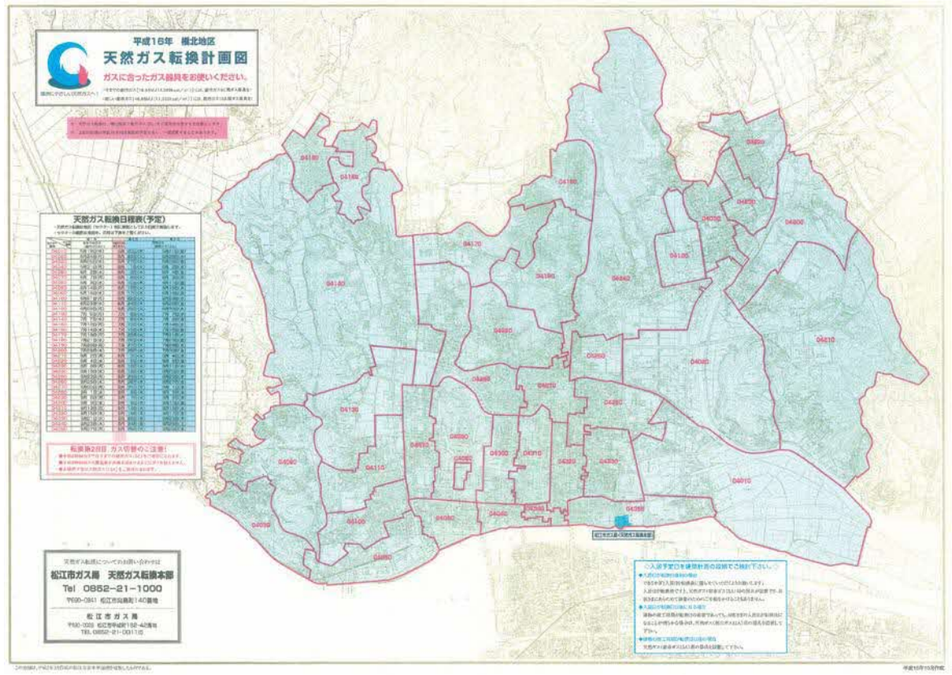




隠岐｜ それは分かってるんだけど、当時は何をしてたかな？って。メンバーを見ても… 思い出せないですが、でも、そんなに難しいことはなくて、粛々と進めていました。

司会（高見）｜ 全件調査しないと部品が頼めないのでお客様全員に会わないといけないですよね？でも会えない人が必ず出てくると思うんですけど。

隠岐｜ もちろん。何回も訪問して時間も変えて行くのだけど、会えない人には会えなかった。熱変当日では部品ストックもないため、コンロの貸出しで対応したと思う。後日、部品を調達してから調整を行いました。



平成16年 橋北地区 天然ガス転換計画図

小笹｜ 多分ね、橋南の時よりも橋北に入る時の準備が早め早めだった気がしてます。広島ガスの方々が1年ぐらい前からうちに来てくれて、当日危なそうなものは事前に対処していたので、だから大分楽でした。橋南の時は、当日工具で大きく穴を開けたりしていました。

橋北の時は部品が無いようなものや不燃防（不完全燃焼防止装置）がないものも、すべて特下で取替をしました。橋南の時は組み合わせた部品を使ってでも調整作業をしていた。結果、安全装置がついた機器に変わって良かったと思います。

司会（高見）｜ 能海さんはどうですか？

能海｜ 橋北はさっき言われたように、1年くらい前から広島から2人来てもらったんで、給排気の関係だったり設置状況などを見てもらってました。怪しい所があれば、それを示して一緒に見てもらってたので、そういう意味ではそんなに当日に苦労する事はなかったですね。

まあ皆さんがしっかりやってたんで、特に私がどうこうすることもなく。まあ2回目ということもありましたし。

司会（高見）｜ 島大がひとつのセクターでしたよね。あのとき器具が多すぎて大変じゃなかったですか。

吉岡｜ ボイラー室が特別下取りの器具庫になって、トラックで運びましたよ。そこが特別下取りチームの基地になってました。そこから器具を持っていって交換していた事を覚えています。



能海｜ 業務用と言っても、GHP（ガス空調）は、メーカー調整だし、あと小さいバーナーみたいなものは全部取り替えで対応しました。

（能海さんから小川さんに向けて）

島大の転換時に、供給チームのパージのスタートが遅くなって….

小川｜ ガスを止めた時に、ガスの使用が無いか確認する確立テストでおかしいことがありました。

室谷｜ 島大は時間がかかった記憶があります。



小川｜ 確か教授が実験用のバーナーでビーカーのコーヒーを飲むのが日課でガスを使用していました。何回も全館をまわってもらいました。

一同｜ 笑

能海｜ でもだいたい時間通りどのセクターもいけたと思います。

司会（高見）｜ 室谷さん、中・低圧パージ担当でしたよね。

室谷｜ 現場の時はね。まああの橋北の時も、セクター設定から遮断テスト、パージもやってました。橋南で経験していたので、橋北は2回目という事でそういう面ではスムーズに業務をこなせたと思います。

司会（高見）｜ 吉岡さんの橋北の思い出は？

吉岡｜ 特別下取りですけど、橋南で販売数が多かったので、橋北も頑張っていたんですけど、ちょうど熱変に入る前ですね、準備に入る時に、橋北は広島ガスさんが指導事業者ということで、そのグループ会社が当時あったんですけど、そこがガス器具を扱っていて、「ぜひ当社で買ってください」という売り込みをされたことを覚えてます。

そこで、価格を聞いたらですね、メーカーさんから買ってる価格よりもずいぶん高くてですね。それじゃあ買えないわということで、交渉して最後は折れられて同じ価格で購入することができて良かったことを覚えています。

司会（高見）｜ 特下のノウハウはどこかに教えてもらいに行かれたのですか。

吉岡｜ いや、それはないですね。橋南地区の熱変の時もだったんですけど、その当時大阪ガスさんが指導事業者でおられて、「自社でやるんだから、自社の考えでやりなさい」という教えをいただいておりまして、それでチラシはいろいろ参考にさせてもらいましたけど、どういう計画でどうやるか、というのは全部計画してやってました。



司会（高見）｜ ありがとうございます。では、西尾さんの橋北の思い出は。

西尾｜ そうですね、ちょっと見てみると、橋北の天然ガス転換スローガンというのを応募で決めてまして、これがですね、最優秀賞で「安全・確実・迅速に、無事故で完了、松江の熱変」ということで、高見さんが受賞されました。（P96「橋北地区熱量変換準備作業スタート」）

一同｜ 笑

西尾｜ これがスタートですね。ちょうど5月から9月の終わり位まで、4ヶ月間位ですかね、これをみんなで共有しながらやったという記憶があります。調整員の組責という立場で、当日の転換が始まる前の式典で結団式をやって、共同化で中国地区のガス事業者から調整員を70名以上お迎えしてその4ヶ月間で部品を交換してもらうんですけど、式典の中で宣誓を私がさせていただいて、その時にさっきのスローガンを述べさせていただきながら、「自分たちはガスマンです」ということをみんなで共有して、テーマに沿ってやっていこうと誓った事を思い出しました。事務所が橋北なので、そこに



宣 誓

我々は、ガスマンとしての誇りを常に持ち、お客様の立場に立った天然ガス転換作業を「安全」、「確実」、「迅速」に行うことをここに誓います。

平成16 年5 月17 日

天然ガス転換本部 調整チーム
代 表 西 尾 哲 也

調整チーム宣誓



調整員が入っていたと思うんですけど、向島町の元ショールームがあったところで、ガランとしたところに一気に関係者も含めて100人近くの人が入って、その状態から4ヶ月経って完了式を迎える事になって、今度は人が一気にいなくなって机も全部片付いていた時は、祭りが始まって祭りが終わったなあって、それは橋南から橋北にかけての長い期間、松江だけが2回に分けて熱変をしたという事で長い期間の熱変が本当に終わったという、安堵した部分もあり、さみしい部分もあるし、それからいろんな人と出会えて、さっきも言いましたけど、涙を流してまで仕事ができるというのはすごい感慨深かったと今思っています。

山田｜ 橋北と橋南でいうと橋北のほうが夜間作業して朝来て夜間まで仕事して…

それぞれのメンバーの個性が強くて、面白いチームだったと思ってます。

殿町方面のビルでガスを止めちゃいけないと言われることがあり小川さんにお願いして圧縮天然ガス（CNG）を設置してもらって、それを付けたら監視をしないといけないので一昼夜車の中で監視をしていました。

持田さんがその現場の担当だったんですけど、一人じゃ怖いので自分も一緒に助手席に座りながら寝てはないですがそんな事もあったと思い出しました。

あとは、そうですね、転換時は小笹さんがウナギを釣ってそれを捌きました。向島のところでよく釣りをした思い出があります。



小笹｜ 笑（山田さんを指さしながら）調理人なんで、明日にも蒲焼きにして..と言って、でも素人の集まりなので、十分な泥抜きをせず料理した結果、臭っさい臭っさい。

一同｜ 笑

小笹｜ でも無理やり食べたね。濃いタレをかけて、身は固いしっていう、全然いい思い出じゃない、苦い思い出です。

一同｜ 笑

山田｜ まあ、そういった息抜きをしながら、無事故に終わったと思います。

北給食センターのフライヤーをどうしても試運転しないといけないんですけど、試運転をするお魚フライとかは提供してもらえないので多分能海さんとかにお願いをして一括して買ってもらって、試し揚げをしてもらった分を調整員のお昼ごはんで配ったんじゃないかな。

司会（高見）｜ 能海さん覚えてますか。

能海｜ いや、覚えてない

一同｜ 笑

司会（高見）｜ ありがとうございます。熱変というのは社運をかけたプロジェクトだったと僕は思っています。それをやり遂げたという事で、熱変をやる前とやった後に、職員の皆さんが変わった部分とかあったのかなと思うのですが、最後にそのあたりをお聞きしたいのですが。

能海｜ 色々な所のガス会社の方と関わるので、知り合いになれて輪が広がったというのはひとつ良かったと思います。なかなか普段一緒に仕事する事もないですし。あとは、お客さんに対する対応が皆さん考えていただけるようになったという気はしますけどね。どうしても私どもは公務員なので、民間と違う所があって、民間の方の厳しさを感じました。大阪ガスさんにけっこう叱られもしましたしね。小川さんもけっこう叱られたんじゃないかな？そうでもない？

小川｜ いや、飲んだだけ

一同｜ 笑

小川｜ 俺は能海さんに誘われて、何のことか分からずにおでん屋に行ったのがはじまりです。



司会（高見）｜ そこから熱変が始まったんですね。

能海｜ 覚えてない

一同｜ 笑

能海｜ まあ、皆さん成長されたんじゃないかと思いますね。

高見｜ ありがとうございました。天然ガスに切り替わったことで、環境にやさしいクリーンエネルギー、高い安全性、優れた利便性をお客様にお届けできたと思います。この事業は、人が成長する事でもあり、涙を流すほどの出来事があったということで締めたいと思います。本日はお忙しいところ、お集まりいただきありがとうございました。

一同｜ ありがとうございました。

※本文中の企業名については、敬称を省略いたしました。

1989
［平成元年］

松江市ガス局の動き

3月31日　ガス機器展示ホール「ガスライフ」完成
4月１日　ガス料金改定（1.11％引下げ、消費税を課す）

ガス・エネルギー業界の動き

4月１日　消費税法の施行に伴うガス料金改定実施、ガス税廃止
5月９日　「90年代の都市ガス事業のあり方検討委員会」が「90年代エネルギー制作への提言」を答申
8月１日　「ガス安全使用強調月間」を「ガス安全強調運動」として強化・長期化

松江市の動き

2月10日　中国電力（株）島根原子力発電所2号機営業運転開始
4月１日　市制施行100周年記念式典挙行
4月20日　マリンゲートしまね、マリンハウス加賀完成
4月23日　第21回全国菓子大博覧会（松江市菓子博'89）開催（～5月14日）

社会の動き

［政治・経済］

1月　7日に昭和天皇崩御、皇太子明仁親王が皇位継承 8日、「平成」と改元
1月　ブッシュ大統領就任（アメリカ）
2月　収賄容疑でリクルート前会長らを逮捕（リクルート事件）
4月　消費税3％の導入
5月　アメリカ政府が日本を不公正貿易国に特定
6月　リクルート事件の責任をとる形で竹下内閣総辞職、宇野宗佑内閣発足
7月　宇野首相の女性スキャンダルもあり、参院選で自民党大敗。宇野首相退陣へ
8月　海部俊樹内閣発足
11月　ベルリンの壁が崩壊（ドイツ）
11月　日本労働組合総連合会（連合）発足
12月　日経平均株価が史上最高値の3万8957円44銭を記録

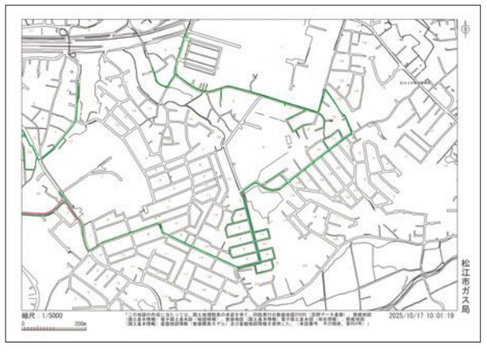
［社会］

1月　金融機関の完全週休二日制が開始
4月　GAME BOY発売
7月　美空ひばり国民栄誉賞を受賞
7月　東京・埼玉で連続少女誘拐事件の犯人宮崎勤逮捕
9月　千代の富士が国民栄誉賞を受賞
9月　横浜ベイブリッジ開通

古志原団地のみなし供給解消に伴う、工事計画届出（平成2年2月15日届出）

昭和61年に100戸以上からなる住宅分譲地として計画された古志原団地は特定ガス供給規程の認可を受け、簡易ガス供給ではなく個別LPボンベ立てによるみなし一般ガス供給が行われていたが、原則5年以内に都市ガスでの供給を行うことが認可条件となっていた。このため上乃木9丁目から古志原町7丁目までの中圧導管を延長し、団地入口付近に一般ガス用の整圧器（ガバナー）を設置する工事を計画。プロパンガスから都市ガスに切り替えるためには熱量変更を行う必要があり、本件工事の承認を得るために中国通商産業局と日本ガス協会中国四国部会に工事計画を届出。

熱量変更作業には、中国通商産業局が認めている全域一斉方式と地区分割方式という2つの方式があるが、本工事については団地を3ブロックに分ける地区分割方式で承認を受けた。

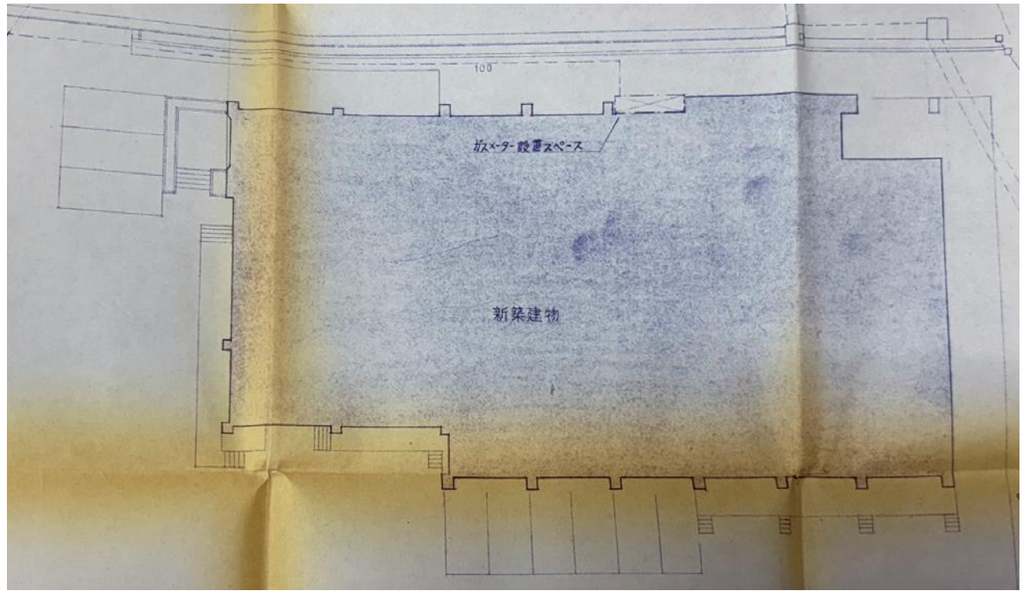


導管延長工事

松江市立北学校給食センターの都市ガス供給開始（平成2年2月20日竣工）

松江市立北学校給食センターの移転に伴う都市ガス供給工事を行ったが、センター付近に低圧導管がなかったため、昭和61年に移転が完了していた隣地の松江市立第二中学校まで敷設されていた低圧導管を中圧導管に仕様替えを行ったうえで給食センターまで延長し圧力の調整を行った。また、規模の大きな建物については中圧導管でのストレート供給が一般的だが、本給食センターで使用されるガスボイラー（貫流ボイラー）が中間圧仕様だったため、延長した導管を中間圧と低圧の各導管で供給を行った。


整圧器（ガバナー）各々の機器に合わせ中圧を延長し、圧力調整



1990
［平成2年］

松江市ガス局の動き

1月　テレコムプラザ（松江市生涯学習センター）のガス設備工事施工
2月15日　古志原団地のみなし供給解消に伴う、工事計画届出
2月20日　松江市立北学校給食センターの都市ガス供給開始
6月　松江市ガス60年史発刊
8月 6 日　松江市ガス事業基本構想の発表

ガス・エネルギー業界の動き

4月 1 日　国際花と緑の博覧会開催、ガスパビリオン出展（大阪）（～9月30日）
6月 5 日　総合エネルギー調査会、「地球規模のエネルギー新潮流への挑戦」と題する中間報告まとまる
7月19日　日本ガス協会、IGF21計画推進委員会設置を決定
8月24日　日本ガス協会、天然ガス自動車実用化調査事業開始
9月10日　第1回日米ガスサミット開催（アメリカ・ワシントン）（～12日）
11月 6 日　第1回西太平洋ガス会議（GASEX'90）開催（東京）（～9日）

松江市の動き

8月30日　小泉八雲来日100年記念式典開催
11月 3 日　第1回小泉八雲賞・小泉八雲市民文化賞授賞式開催

社会の動き

［政治・経済］
1月　大学入試センター試験を初めて実施
1月　軽自動車の規格が550ccから660ccに改定
3月　ソ連初代大統領にゴルバチョフが就任
8月　イラクがクウェートを侵攻。ブッシュ米大統領は海部首相に制裁と支援を要請、政府は経済協力凍結を発表。さらに中東周辺国への経済援助を申し出る
10月　日経平均株価が2万円を割る（バブル経済崩壊）
10月　東西ドイツ統一

［社会］
1月　明仁天皇次男の文仁親王と川嶋紀子さんが結婚
3月　キリン一番搾り発売
3月　千代の富士が史上初となる通算1000勝達成
4月　国際花と緑の博覧会が開幕（大阪）
11月　日本初の優良民会衛星放送チャンネルWOWOW開局
11月　スーパーファミコン発売
12月　秋山豊寛が日本人初の宇宙飛行へ
12月　サンリオピューロランド開園

松江市ガス事業基本構想の発表（平成2年8月6日答申）

松江市ガス事業基本計画策定委員会（委員は、本市ガス局職員で構成）は、平成2年8月6日に「松江市ガス事業基本構想」を本市ガス事業管理者に対し答申した。この基本構想は、来たる21世紀に向けた松江市の方針である、“心都・松江21世紀構想”との調和を図るもので、松江市が都市ガス事業を開業した昭和5年以来、幾多の苦境と困難を克服し、今日まで培ってきた豊富な経験と実績を基盤に、複合エネルギー時代に向かい、一層の経営基盤の強化とガス事業の発展、さらに地域社会に密着した愛されるガス事業の運営に資することを目的とした。

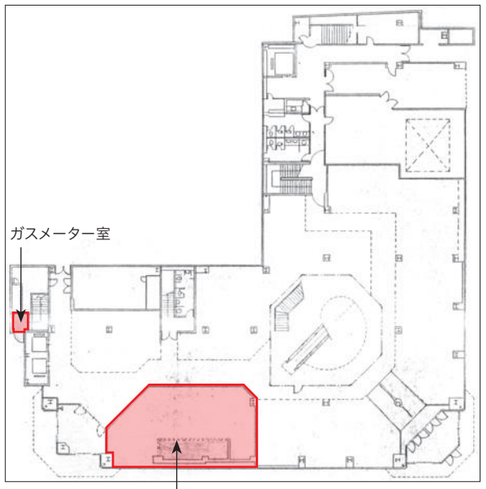
本構想は21世紀のガス事業を見据えた運営方針で先行する仙台市ガス局、福島ガス、東京ガスエンジニアリングの各事業者の視察を行い策定されたもので、平成12年（西暦2000年）を目標年次とし、各指標を

①供給区域の拡大
②安定供給と保安の確保
③原料の安全確保（高カロリー化の推進・液化天然ガス（LNG）の導入）
④地域に密着したサービス体制の確立
⑤適正な料金水準の維持とした。

テレコムプラザ（松江市生涯学習センター）のガス設備工事施工

平成3年にオープンする、STICビル（松江市生涯学習センター・テレコムプラザ松江）にガスを供給するための設備工事を行った。STICビルのある寺町地区は、古くから大橋・新大橋の供給ルートであり、また付近に整圧器（ガバナー）がなかったため、ガス圧の低い地域だった。そうした状況で本物件のような大型の施設が完成すると、周辺の一般家庭が供給圧不足に陥るおそれがあるため、STICビルのオープンに合わせ中圧導管と共にガバナーを設置し、圧力の調整を行った。また、当時のガバナーは大型だったためビル前道路の地下に埋設したが、熱量変更後はコンパクトな天然ガス用になったため地上に設置し直した。





1991
［平成3年］

松江市ガス局の動き

IGF21計画について、日本ガス協会中国部会が説明会を開催
4月　ガス導管図管理のため、コンピューター導入
8月　古志原団地をLPガス供給から燃料転換により都市ガスを供給。燃料転換戸数96戸
平成3年度ガス販売量1,500万㎥／年突破（5C）

ガス・エネルギー業界の動き

1月17日　湾岸戦争に対応するため、日本ガス協会に「原料等緊急対策本部」を設置
3月31日　都市ガス製造用揮発油（ナフサ）に係る関税還付制度の廃止
4月 3 日　リン酸型燃料電池技術研究組合設立
4月25日　日本ガス協会、「エネルギーと環境に関する活動助成基金」を創設
5月16日　日本ガス協会、低カロリーガスグループの集約と高カロリー化を実現するための「IGF21計画」の基本フレーム決定
6月　都市ガス業界パソコン通信ネットワーク「JGA ネット」を開発
9月19日　日本ガス協会、90年代の保安対策についての「保安レベルの一層の向上を目指して」まとまる
11月 1 日　日本ガス協会、「天然ガス自動車フォーラム」設立

松江市の動き

11月 3 日　STIC（生涯学習センター・テレコムプラザ松江）オープン
12月10日　惣津・松本優さん宅に隕石落下、美保関隕石と命名

社会の動き

［政治・経済］
1月　湾岸戦争の影響で原油高騰
5月　育児休業法が成立
11月　海部内閣総辞職、宮澤喜一首相就任
12月　ゴルバチョフ大統領辞任に伴い、ソ連崩壊

［社会］
5月　千代の富士が引退
5月　東京都港区にジュリアナ東京オープン
6月　東北・上越新幹線の東京駅乗り入れ開始
6月　長崎県の雲仙普賢岳が噴火。大規模な火砕流が発生（死者40人、不明3人）する

IGF21計画を受け、日本ガス協会中国部会で熱量変更作業共同化について検討

「IGF21計画（Integrated Gas Family 21 計画）」は、当時の通商産業省（現・経済産業省）資源エネルギー庁からの提案を受けて、日本ガス協会及び日本ガス石油機器工業会が、平成22年を目途に全国の都市ガスを天然ガスを中心とした高カロリーガス化することを目的に策定したガス業界の一大プロジェクト。都市ガスの原料を石油系から化石燃料の中で最もクリーンエネルギーである天然ガス（LNG）に転換し、都市ガスの発熱量・燃焼性などで分類されるガスグループを複数から13A・12Aに統一するには、多大な人材、資材、資金が必要だった。

この課題の解決に向け本市ガス局が加盟する日本ガス協会中国部会（全13事業者）では、平成4年に「中国地域LNG導入等推進研究会」を設置し、各事業者のIGF21計画の対応を踏まえ熱量変更を共同化事業として進める可能性の検討が始まった。平成6年には研究会から「中国ブロック熱量変更共同化推進委員会」へ改組、共同化派遣要員数の策定や労務費他の費用負担、熱量変更調整員教育など多岐にわたる議題について意見が交わされた。

【中国ブロック熱量変更共同化参画事業者】
広島ガス（株）、出雲ガス（株）、鳥取ガス（株）、
山口合同ガス（株）、浜田ガス（株）、岡山ガス（株）、
松江市ガス局、米子ガス（株）、津山ガス（株）、
宇部市ガス水道局、福山ガス（株）、因島ガス（株）、
水島ガス（株）

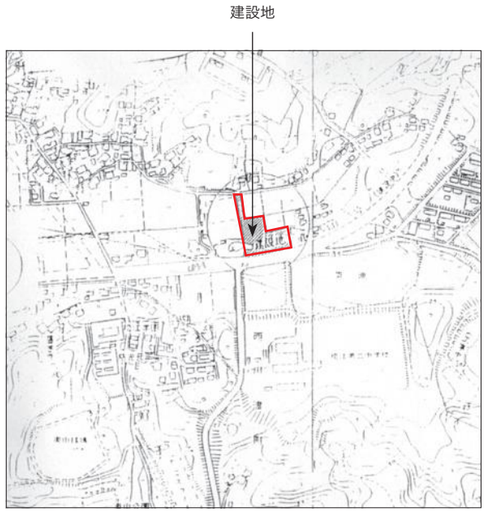
国際交流会館建設事業ガス設備工事の竣工（令和4年3月31日竣工）

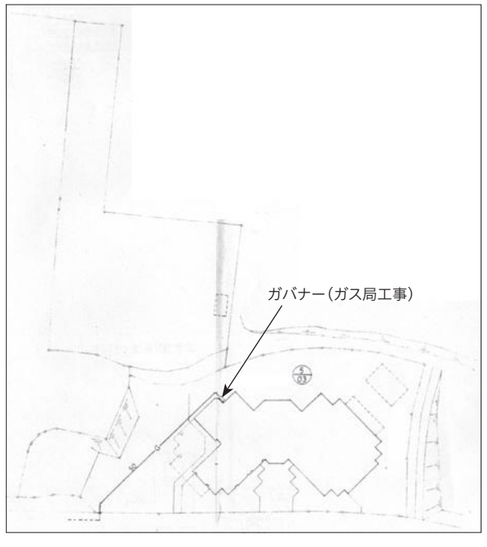
国際文化観光都市・松江の国際交流の拠点となる「松江市国際交流会館」（平成3年9月11日着工）の竣工に伴い、施設内で使用するガス設備の設備工事も完了。

竣工当時は国際交流管前の431号線バイパスは開通前で、付近の輸送導管（中圧ガス管）を延長し施設内で使用できるよう、整圧器（ガバナー）による圧力調整を行った。


ガス整圧器（ガバナー）


別棟にガバナー室を設置





1992
［平成4年］

松江市ガス局の動き

3月31日　国際交流会館建設事業ガス設備工事の竣工
5月　この年ガス需要家数15,000戸突破
6月29日　松江市球型ホルダー美観事業について美観対策懇談会を開催
9月　松江市球型ホルダー美観事業完成式
球形ガスホルダー（5,000㎥×7kg／㎠）をジャンボ地球儀に化粧直し

ガス・エネルギー業界の動き

4月 1 日　保安推進プランナー制度発足（6月10日発足式開催）
4月 1 日　ガス冷房普及促進のための料金制度改訂実施
5月18日　総合エネルギー調査会都市熱エネルギー部会ガス基本問題検討小委員会「中間とりまとめ」まとまる
5月20日　計量法改正（公布）法廷軽量単位のSI化決定
6月16日　日本ガス協会、家庭用超小型ガス冷房技術開発事業開始
7月 1 日　日本ガス協会、「ガス冷房普及センター」設置
11月20日　日本熱供給事業協会、社団法人として許可
11月25日　産業構造審議会・総合エネルギー調査会・産業技術審議会合同会議が、地球環境問題の取り組みについて答申
12月 7 日　第1回都市ガスシンポジウムアネックス開催（西部ガス）（～8日）

松江市の動き

4月 1 日　隠岐航路に超高速船「レインボー」就航（旧美保関町）
6月14日　松江市国際交流会館開館

社会の動き

［政治・経済］
6月　世界遺産条約に批准
7月　証券取引等監視委員会が発足
8月　中国・韓国が国交樹立
10月　天皇皇后両陛下が初の中国訪問
11月　米大統領、民主党のビル・クリントンが当選

［社会］
2月 8 日　アルベールビルオリンピック開催（～23日）
3月　東海道新幹線に「のぞみ」デビュー
5月　藤山一郎が国民栄誉賞を受賞
7月　山形新幹線が開業
7月　長谷川町子が国民栄誉賞受賞
7月25日　バルセロナオリンピック開催（～8月9日）
9月　日本初の宇宙飛行士　毛利衛が宇宙に旅立つ
9月　学校の週5日制が開始（当初は月1回）

液化石油ガスの特定供給設備の新設（くにびきメッセ、松江サティ用）（平成5年9月9日供給開始）

くにびきメッセ・松江サティの各施設管理者より本市ガス局に対しガスの供給依頼を受けた。くにびきメッセ、松江サティ共に市の中心付近に立地し、LPGタンク等の設置許可が下りないため必然的に向島工場に製造設備を設置することになった。



くにびきメッセ敷地内　配管布設状況

製造施設の概要

公称15トン貯槽	2基（貯蔵能力30.092トン）
蒸発器	2台
コンプレッサー	1台

その他保安設備等付属施設一式

向島町ガス局球形ガスホルダーの美観事業

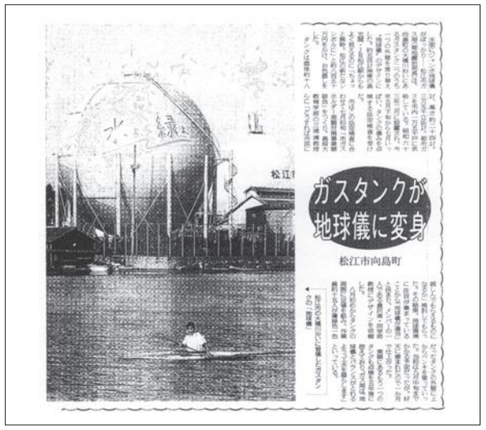
昭和63年2月に設置された球形ガスホルダーの使用開始から5年以内に行う内外部の法定検査に合わせて、有効利用と環境、景観対策上から、官学民より選出された有識者による委員会を設置し、7月8日に第1回の委員会を開催。そこで議題として球形ガスホルダーの景観対策上からの有効利用、実施計画工程について協議を行った。当時地球環境問題に注目が集まっていたことから、デザインのベースを地球儀に決定し、図柄、色彩、文字等を検討。同年9月12日には、約1ヶ月の作業期間と約850万円の費用をかけて完成した新装ガスホルダーの完成式典が大橋川の対岸で行われた。高さ23m、直径21mの巨大地球儀に描かれた「水よ、緑よ」のメッセージには、“生命の源である水や緑への慈しみを二十一世紀に羽ばたく子どもたちに託そう”との願いが込められる。式典で石倉市長は「松江から『生き生きとして地球をいつまでも』という思いを発信したい」と挨拶した。



「水の都・松江」をPRしようと、石倉孝昭市長が発案しペンキを塗り替えその量はなんと250キロ



1992（平成4）年9月13日掲載（山陰中央新報）



1992（平成4）年9月15日掲載（読売新聞）

1993
［平成5年］

松江市ガス局の動き

1月25日　液化石油ガスの特定供給設備の新設許可（くにびきメッセ、松江サティ用）
2月26日　都市ガス製造プラント監視制御システム導入
7月　ガスライフ横に液化石油ガス発生設備及び貯蔵設備完成
12月　生馬が丘団地簡易ガス事業許可
松江サティ、くにびきメッセLPG供給開始

松江市の動き

4月29日　宍道ふるさと森林公園開園
10月 7 日　島根県産業交流会館（くにびきメッセ）オープン
10月23日　宮岡寿雄氏第11代市長に就任

社会の動き

［政治・経済］
1月　チェコとスロバキアが分離独立
1月　クリントン大統領就任（アメリカ）
7月　宮沢喜一郎内閣が総辞職、細川護熙首相就任
8月　新党ブーム。日本新党などが躍進し、細川 護熙内閣が発足
8月　土井たか子が初の女性衆議院議長に就任
11月　小選挙区比例代表並立制を主とする政治改革4法案が衆院で可決される
12月　田中角栄元首相死去

［社会］
1月　釧路沖地震
1月　曙が外国人力士として初の横綱に
2月　服部良一が国民栄誉賞を受賞
5月　日本プロサッカー、Jリーグが開幕
6月　皇太子徳仁親王、外務省キャリアの小和田雅子さんと結婚
7月　北海道南西沖地震
7月　横浜ランドマークタワー開業
8月　レインボーブリッジが開通
10月　伊勢神宮で第61回式年遷宮における遷御の儀（内宮）

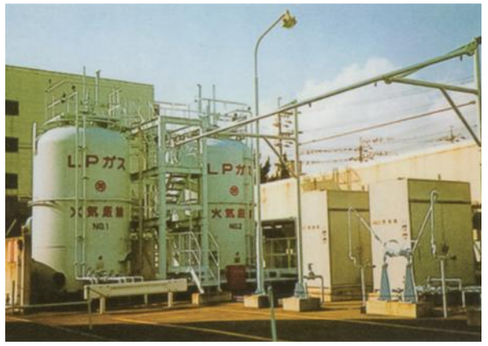
ガス・エネルギー業界の動き

1月15日　釧路沖地震発生、日本ガス協会救援対策本部を設置（1月16日）（釧路ガス9,391戸供給停止）
3月 9 日　IGF21計画関連省令等の改正により、新ガスグループ及び集約スケジュール等が確定
4月 6 日　通産省、ガス安全高度化検討会「中間報告」まとまる
4月26日　（財）エコステーション推進協会設立
5月17日　第1回日韓台ラウンドテーブル開催（東京）
5月20日　山梨県で発生した簡易ガス事業者の事故（7名死亡）をきっかけに、通産省公益事業部長の下に常設の「ガス事故調査委員会」を設置
7月12日　北海道南西沖地震発生、日本ガス協会北海道部会救済対策本部設置（7月13日）（長万部町営ガス1,425戸供給停止
7月15日　「日本ガス協会災害救援金制度」発足
8月 2 日　日本ガス協会、セラミック天然ガスエンジンシステム技術開発事業を開始
8月 6 日　鹿児島地方集中豪雨、日本ガス協会九州地方部会救済対策本部設置（8月8日）（日本ガス820戸供給停止）
9月 1 日　日本ガス協会、防災功労者内閣総理大臣表彰を受賞
9月 9 日　九州地区ガス事業者が共同方式による初めての熱量変更作業に着手（筑紫ガスより）
9月24日　東京ガス、大阪ガス、東邦ガス3社に、円高差益還元措置として、ガス料金の暫定一律引下げ特別供給条件を認可（期間：平成5年11月から平成6年9月まで）
10月31日　第2回「IEA天然ガス技術会議」日本で開催（京都）（～11月3日）
11月19日　地方都市ガス事業者45社にガス料金の暫定一律引下げ特別供給条件を認可（期間：平成5年12月から平成6年9月まで）
11月30日　通産省、ガス安全高度化検討会「最終報告書」（副題 - ガス死亡事故ゼロを目指して -）まとまる
12月 1 日　総合エネルギー調査会基本政策小委員会「中間報告」まとまる
12月 8 日　通産省、ガス地震対策調査会「報告書」まとまる
12月16日　地方都市ガス事業者15社にガス料金暫定一律引下げ特別供給条件を認可（期間：平成6年1月から9月まで）（～20日）

松江サティ、くにびきメッセLPG供給開始

ニチイグループが片倉工業跡地に大規模店舗（松江サティ、現在のイオン松江ショッピングセンター）の建設計画が進められていることが分かり、ガスは空調用と食品加工、厨房用、各専門店の厨房用に使用されると申込があった。天然ガスによるガスコージェネレーションシステム導入で一定の成果が出ていたことから天然ガス供給を検討して欲しいとの要請があったが、当時高カロリー化の推進・LNGの導入を含む「松江市ガス基本構想」を出した後でもあり、近い将来の実現をもって暫定的にLPガスの供給となった。

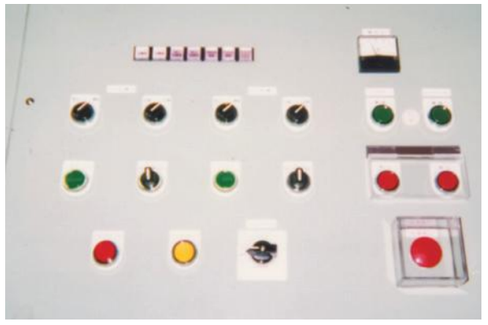
建設が進められていた県立産業交流会館は「くにびきメッセ」の名称となった。施設建物内で使用する電力の大部分が一般の商用電源ではなくガスエンジンによる常用発電ということで注目された。最大1000kwの80% 800kwをガスで発電することで夏季の電力のピークカットに貢献した。



都市ガス製造プラント監視制御システム導入（平成5年2月26日竣工）

昭和45年の建設以来、1、2号プラントを監視する制御システムとして運用が続けられてきた旧システムからコンピュータ制御による、安全な運転と監視が行える新システムを導入。

本システムは、最新（当時）のコンピュータシステムを駆使しガス製造プラントの監視と制御を主体に構築されたもので、さらに日報、月報等の記録機能を備えた合理的かつ総合的なコンピュータシステムとなっている。


コンソール右側　操作スイッチ類


独立操作が可能な2台のキーボードと20インチの大型CRT、ログプリンタ、アラームプリンタ、2重化されたホストコンピュータ（KEI-1600）、外部記憶装置のハードディスクとフロッピーディスク、信号入出力用の2台のコンピュータ（KEI-800）で構成されたシステム

熱量変更に向けて

1994
［平成6年］

松江市ガス局の動き

12月21日　出雲かんべの里　工芸館・民話館設備工事
　　中国ブロック「熱量変更共同化協定書」締結

ガス・エネルギー業界の動き

1月28日　総合エネルギー調査会都市熱エネルギー部会報告書まとまる
4月 1 日　「ガス熱量変更準備金制度」創設
4月 1 日　日本ガス協会、幹線パイプライン技術開発プロジェクト部を設置
6月15日　日本ガス協会、資料センターを開設
6月21日　総合エネルギー調査会「長期エネルギー需給見通し」を改訂
7月 1 日　日本ガス協会、IGF21計画推進プロジェクト部を設置
7月19日　東京ガス、大阪ガス、東邦ガス、西部ガス4社にリフォーム事業の業務許可
8月25日　東京ガス、大阪ガス、東邦ガス3社にガス料金暫定一律引下げ継続を認可（期間：平成6年10月から平成7年9月まで）
9月 6 日　地方都市ガス事業者53社にガス料金暫定一律引下げ継続を認可（期間：平成6年10月から平成7年9月まで）
10月 4 日　日本ガス協会、幹線パイプライン技術開発事業を開始
12月28日　三陸はるか沖地震発生、日本ガス協会東北部会救援対策本部設置（八戸ガス137戸供給停止）

松江市の動き

3月26日　アメリカニューオーリンズ市と友好都市提携を締結
4月29日　出雲かんべの里　工芸館・民話館　オープン
5月22日　出雲・宍道湖・中海拠点都市地域への指定決定
10月20日　国際会議　観光都市に指定

社会の動き

［政治・経済］
1月　郵便料金がハガキ41円→50円、封書62円→80円に改定
4月　細川護熙総辞職、羽田孜首相就任。
6月　羽田孜総辞職、村山富市首相就任
12月　新進党結党（党首に海部俊樹、幹事長は小沢一郎）

［社会］
2月12日　リレハンメルオリンピック開催（～27日）
6月　松本サリン事件が発生（死者8人）
7月　日本人初の女性飛行士・向井千秋が宇宙へ
9月　関西国際空港が開港
10月　大江健三郎、ノーベル文学賞受賞決定
12月　PlayStation® 発売

出雲かんべの里　工芸館・民話館　ガス設備工事

出雲地方の歴史・文化を紹介する施設として平成6年4月29日にオープンした「出雲かんべの里」の工芸館・民話館に液化石油ガス（LPG）の供給を開始した。

【設置機器】（令和4年 調査時）

工芸館

GHP（ガス空調）室外機	2台
LPG容器	50kg　18本

［かんべ茶屋側］

業務用コンロ	1台
3重巻コンロ	1台
炊飯器	1台
給湯器	2台

民話館

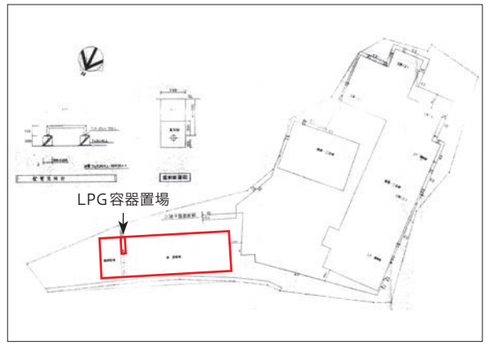
GHP（ガス空調）室外機	1台
LPG容器	50kg　14本
2口コンロ	1台
瞬間湯沸器	2台

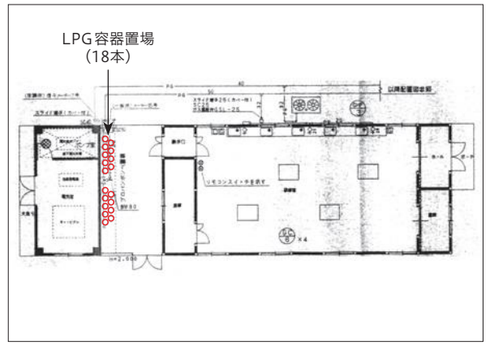


GHP（ガス空調）室外機

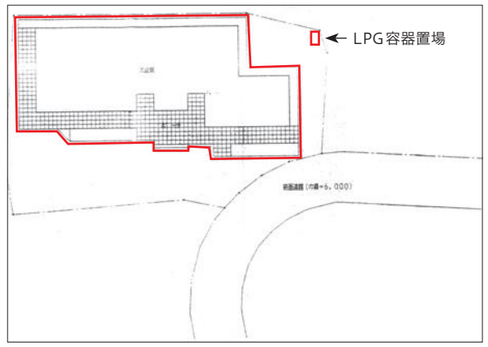


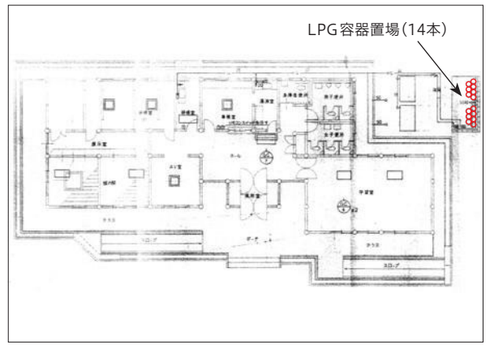
GHP（ガス空調）室内機





工芸館





民話館

1995
［平成7年］

松江市ガス局の動き

工事計画の認可（新基地～国立療養所前線拡張工事）
2月11日　阪神淡路大震災　ガス復旧応援隊（7名）派遣（～4月1日）
3月13日　山代住宅簡易ガス事業許可・開始
7月20日　生馬が丘団地簡易ガス事業開始

松江市の動き

3月 9 日　京店カラコロ広場完工
8月 1 日　観光ループバス レイクライン運行開始
8月 1 日　平成7年度全国高等学校総合体育大会開催（～6日）
10月21日　第8回全国健康福祉祭（ねんりんピック）島根大会開催（～24日）

社会の動き

［政治・経済］
1月　世界貿易機関（WTO）発足
4月　東京で青島幸男知事、大阪で横山ノック知事誕生
4月19日　円高が進み、1ドル=79.75円の戦後最高値を記録
7月　製造物責任（PL）法の施行
7月　アメリカ・ベトナム国交正常化発表
7月　製造物責任（PL）法の施行
11月　イスラエルのラビン首相暗殺

［社会］
1月　M7.3の阪神・淡路大震災が発生（死者6400人超）
2月　野茂英雄がドジャーズ入団
3月　地下鉄サリン事件（死者13人）が発生。オウム真理教の犯行と判明し、列島に激震が走る
5月　オウム真理教教祖・麻原彰晃（松本智津夫）逮捕
8月　NTT、テレホーダイのサービス開始
11月　マイクロソフト社、Windows95日本語版発売

ガス・エネルギー業界の動き

1月17日　阪神・淡路大震災発生、日本ガス協会救援対策本部設置（大阪ガス857,400戸供給停止、応援隊155事業者・9,712名、94日間で復旧）
2月 1 日　総合エネルギー調査会都市熱エネルギー部会「ガス事業料金制度分科会中間とりまとめ」まとまる
3月 1 日　大口ガス事業の創設、ガス主任技術者試験の委託（改正ガス事業法施行）
4月11日　阪神・淡路大震災で都市ガスの復旧が一部を除き完了（ガス協会応援隊は最大155事業者1団体・3,718人）
4月14日　科学技術館（東京・北の丸公園）に日本ガス協会常設展示場「ガス・サイエンス・アーケイド」開設
6月 1 日　総合エネルギー調査会国際エネルギー部会「中間報告」まとまる
7月21日　総合エネルギー調査会都市熱エネルギー部会「ガス事業料金制度分科会」中間報告まとまる
8月25日　東京ガス、大阪ガス、東邦ガス3社にガス料金暫定一律引下げ継続を認可（期間：平成7年10月から新料金制度移行時まで）
10月 8 日　「第16回世界エネルギー会議東京大会」開催（幕張）
日本ガス協会「世界エネルギー展東京'95」に出展（～13日）
12月15日　初の供給区域外大口供給開始（幸手都市ガス）
12月15日　「天然ガス自動車に対する大臣認定制度」終了（天然ガス自動車が許認可関係で一般の自動車と同様の取扱に）

阪神淡路大震災の応援（平成7年2月11日）

平成7年1月17日午前5時46分頃兵庫県淡路島沖の明石海峡を震源とするマグニチュード7.3の強い地震が発生。被害者は6,434人にも達する都市型地震として戦後最大級の震災となった。

大阪ガスによると、同日午後4時半の時点で二次災害防止のため神戸市、芦屋市、西宮市、宝塚市などを中心に約47万7千戸のガス供給を停止。翌18日広島、四国、岡山、山口、水島、福山、鳥取の7事業者に救援派遣要請が入り、20班137名の派遣が決定。本市ガス局は、第2次救援隊として出雲ガス、浜田ガスとの混成でチームを編成し2月11日に出発。現場では、広島ガスが主体となる中国部会第5修繕隊として大阪北7ブロック、神戸3ブロックの本支管の復旧・修繕を担当した。

当初は掘削機、ダンプ等の車両持込で活動できることが条件だったため、その条件の揃わない本市ガス局では承認工事事業者と一体で活動できる体制づくり等の検討で難航したため、結果的に2月11日の出発となったが本救援活動へ参加したことにより約2か月に及ぶ派遣期間の中で多くの技術、ノウハウを蓄積することができた。


出雲ガス・浜田ガスとの混成チームで出発






本支管工事の修繕

熱量変更に向けて

簡易ガス事業の山代住宅を開始（平成7年3月13日開始）

山代住宅は松江市山代町に位置する国の住宅団地で、地点数32戸に対して小規模導管事業により液化石油ガスの供給を行っていました。同敷地内に新たに48戸を建設し、山代住宅80戸ができるにあたり大蔵省中国財務局より、本市ガス局にガス供給の申し込みがあった。平成6年8月18日に簡易ガス事業許可申請を行い、平成7年3月13日に簡易ガス事業許可を得て事業開始した。

供給地点	山代住宅 80地点
製造所名	山代住宅特定製造所
事業許可年月日	平成7年3月13日
許可番号	6中国通産公第1948号
事業開始年月日	平成7年3月13日
製造所位置	松江市山代町751番地
集合装置	液化石油ガス（LPG） 50kg容器20本×2系統 外径27.2㎜×8.790m STPG370
気化装置	自然気化
調整装置	バネダイアフラム式 二段二次減圧式 70kg/h×2基

簡易ガス事業の生馬が丘団地を開始（平成7年7月20日開始）

平成3年10月に民間事業者から、生馬が丘団地の液化石油ガス使用の申し込みを受けた。

同開発区域は松江市東生馬町で生馬小学校近くの閑静な場所に位置し、本市ガス局の都市ガス供給区域外であるため、団地の中心部にボンベ庫（ガス発生設備）を設置し液化石油ガス（LPG）を供給する簡易ガス事業とした。

平成5年12月24日に簡易ガス事業許可を得て、平成7年7月20日に事業開始した。

供給地点	生馬が丘団地 250地点
製造所名	生馬が丘団地特定製造所
事業許可年月日	平成5年12月24日
許可番号	5中国通産公第2636号
事業開始年月日	平成7年7月20日
製造所位置	松江市東生馬町750番地
集合装置	液化石油ガス（LPG） 50kg容器45本×2系統 外径34.0㎜×23.520m STPG370
気化装置	自然気化
調整装置	バネダイアフラム式 二段二次減圧式 200kg/h×2基





工事計画の認可（新基地～国立療養所前線拡張工事）

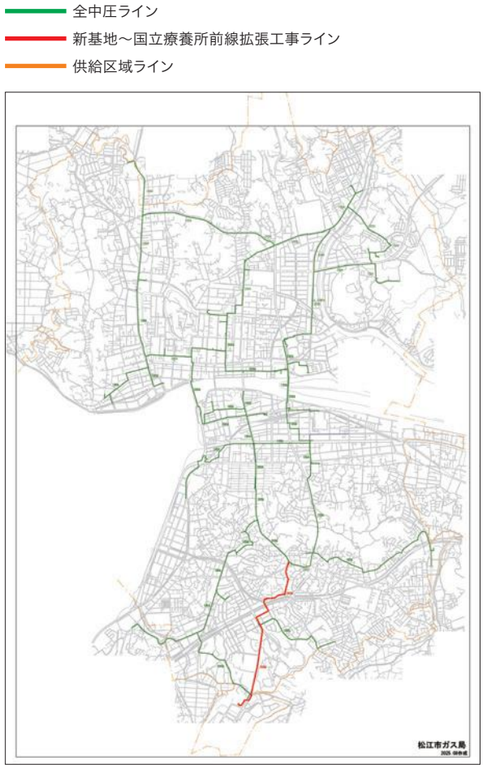
創業以来向島町でガス製造を行っていた本市ガス局では、需要増に対してはその都度施設の増設を行い対応してきたが、これまで準工業地域であった同町が商業地域に変更されるなど周辺の都市化が進み建築基準法の制限等でこれ以上の増設が不可能な状況になったことに加え、近隣住宅への環境対策上深夜操業も困難であるため、それら諸課題を解決するべく平成町（当時乃白町）に新基地用地を確保。

今後の需要増への対応と国策である高カロリー化を推進するため、平成12年より新規地での都市ガス13Aの製造の開始と橋南地区熱量変更の実施、さらに平成16年には橋北地区熱量変更の実施と全域の都市ガス13A化を図るものとした。

また供給区域の南端に位置する新基地では全域供給するための導管を敷設する必要があり、新基地建設の事前準備として橋南地区の熱量変更に必要な導管の敷設を計画。

平成7年時点での供給戸数約16,000戸への供給量が年間1,600万㎥（都市ガス5C）に対し、当時の需要率から20年後を試算した結果年間2,900万㎥（都市ガス13Aに換算した場合、年間1,200万㎥）となり、この供給量を確保するため暫定的に中圧A仕様で施工したものを中圧Bによる供給で計画。また平成16年に橋北地区の熱量変更を実施するまでは橋南地区の供給となるため、新基地から既設中圧導管末端への接続までとする認可申請から許可～施工～完成に至る計画とした。

なお、本計画の中圧A輸送導管について新基地建設等を含め熱量変更にかかる費用の平準化を図りながら平成7年度～平成8年度での申請、施工を計画していたが、道路管理者、河川管理者及び下水管理者等との協議の結果、第1期（平成7年度）～第4期（平成11年度）に分割して申請・施工を実施した。



中圧導管図



布敷状況

1996
［平成8年］

松江市ガス局の動き

	平成町新ガス基地造成開始
1月	向島町　熱量変更対策本部棟建設（軽量鉄筋造2階建て）
10月２日	あじさい団地簡易ガス事業許可
11月１日	ガス料金改定（複数二部料金制度及び原料費調整制度を導入）

ガス・エネルギー業界の動き

1月１日	第1グループ各社ガス料金改定、原料費調整（スライド）制度導入、以降各社が料金改定（最終平成9年1月1日実施）
1月16日	通産省、ガス地震対策検討会「報告書」まとまる
5月28日	「電力・ガス事業者の海外事業に関する懇談会」報告書まとまる
6月６日	初の大口ガス事業者供給開始（帝国石油が新井市営ガスの供給区域内で）
6月10日	日本ガス協会、新定款認可
7月１日	日本ガス協会、「地方部」、「環境部」、「石炭SNG開発プロジェクト部」、「ガス導管液状化対策調査研究プロジェクト部」を設置
11月26日	「天然ガス自動車ショー'96」開催（日本ガス協会と東京ガスの共催）
12月３日	日本ガス協会、ガス導管液状化対策調査研究事業を開始
12月18日	日本ガス協会、「都市ガス事業の環境保全に関する自主行動計画」を策定
12月20日	総合エネルギー調査会基本政策小委員会「中間報告」まとまる

松江市の動き

3月30日	七類港に「メテオプラザ」オープン
4月20日	来待ストーンが完成
7月	「玉造温泉ゆ～ゆ」完成

社会の動き

［政治・経済］

1月	村山富市内閣が総辞職、橋本龍太郎首相就任
6月	コメ販売の自由化

［社会］

2月	羽生善治が王将位を獲得し、7冠を達成
4月	国内初の商用検索サイトYahoo! JAPANサービス開始
7月19日	アトランタオリンピック開催（～8月4日）
9月	渥美清が国民栄誉賞を受賞
9月	野茂英雄がメジャーリーグで日本人初のノーヒットノーラン達成
11月	たまごっち発売

都市ガス料金改定
（複数二部料金制導入：平成8年11月1日実施）

平成7年7月の総合エネルギー調査会都市熱エネルギー部会都市ガス事業料金制度分科会における、都市ガス料金を含む公共料金一般に対する低廉化要請の高まりや、内外価格差問題に対する議論の高まりからヤードスティック的査定の導入等、事業者の効率化を促す新たな料金制度の速やかな実施、具体化および複数二部料金制度の導入を求める報告を受け、本市ではこの報告の趣旨に沿って、より原価負担の公平が図られる料金制度として複数二部料金体系に変更。さらに新たな都市ガス料金制度導入に対する社会的な期待等を踏まえ、最大限の効率化を織り込んだガス事業法第17条に基づく供給規程の変更が行われた。

【具体的な内容】

①ガス料金の変更～ガス料金体系について、「最低責任使用量付区画別逓減制」いわゆる「ブロック料金制」を、より原価との対応関係に忠実なものとするため、使用料を基準として、3つの需要群に区分し、各需要群ごとに基本料金と従量料金を設定する「複数二部料金制」に変更。

②ガス料金の変更～総合エネルギー調査会都市熱エネルギー部会都市ガス事業料金制度分科会の平成7年2月の「中間とりまとめ」および7月の「中間報告」の趣旨に沿って、経済情勢の変化を迅速に反映した料金とするため、半期ごとに原料費の変動に応じた料金を調整する「原料費調整制度」を導入。

平成町新ガス基地造成開始

複数の候補地の中から新基地用地として選定された乃白町第二卸商業団地（現在の平成町）で、新ガス基地建設に向けた造成が開始された。

平成7年に新団地の造成工事が着手された。その後平成8年には団地地区の町名を「平成町」に決定し、平成10年には一般公募により、団地愛称を「クレアヒル松江」とされた。

クレアヒル松江は、英語のCreate（創造する）と、Hill（丘陵）を合成した造語で、この丘陵地をこれから流通の新業態を創造していく拠点とするとした。

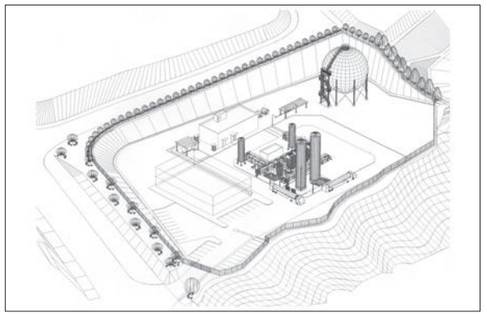




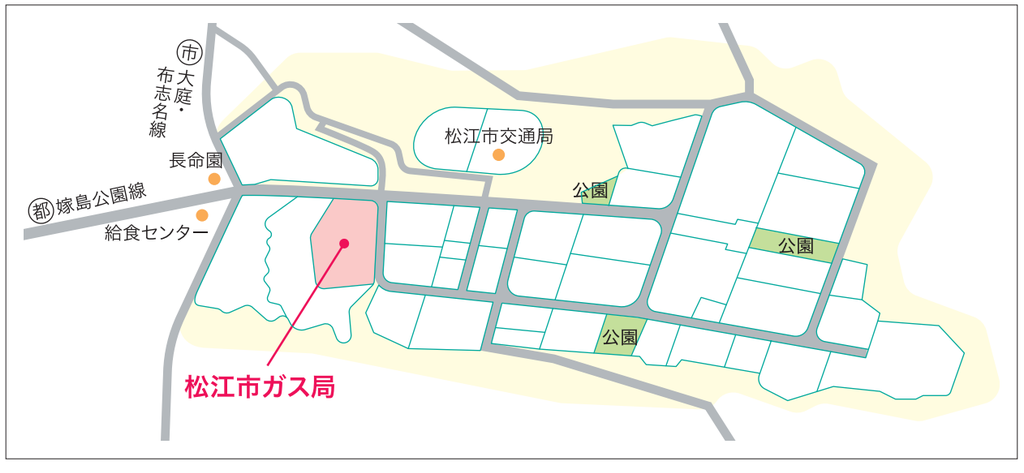
目違い測定



配管状況／埋戻



計画完成予想図



新ガス基地建設予定地

1997
［平成9年］

松江市ガス局の動き

6月12日　松江南消防庁舎液化石油ガス設備完成
7月 8 日　熱量変更作業に伴う技術指導事業の開始
9月　伊勢宮用地（139.6㎡）取得
10月 1 日　あじさい団地簡易ガス事業開始

ガス・エネルギー業界の動き

1月20日　日本ガス協会、インターネットホームページを開設
4月 1 日　日本ガス協会、地方部会を支部化
4月 1 日　総合エネルギー対策推進閣僚会議を開催、電力負荷平準化対策としてガス冷房普及を明記
9月 1 日　「安心ガスライフ21運動」実施（従来の「ガス安全使用強調運動」を改称）（～11月30日）
10月31日　日本ガス協会、創立50周年を記念して「日本都市ガス産業史」を発刊
12月 1 日　地球温暖化防止京都会議（COP3）を開催。日本ガス協会、COP3開催行事の地球環境フェア in 神戸'97に出展（11月27日～30日）、エコ・ジャパン'97に出展、NGV（天然ガス自動車）全国縦断キャラバンを実施（12月1日～6日）

松江市の動き

5月17日　松江城山稲荷神社式年神幸祭ホーランエンヤ（～25日）
7月20日　ぐるっと松江堀川めぐり（堀川遊覧船）就航
9月 9 日　松江南消防署完成

社会の動き

［政治・経済］
4月　消費税3%から5%へ
10月　酒税法の改正
10月　臓器移植法が施行
11月　三洋証券、北海道拓殖銀行、山一證券が経営破綻

［社会］
3月　秋田新幹線が開業
5月　今村昌平監督「うなぎ」がカンヌ国際映画祭でパルムドール受賞
6月　神戸連続自動殺傷事件の犯人逮捕
8月　ダイアナ元皇太子妃がパリで交通事故死
9月　北野武監督「HANA-BI」がヴェネツィア国際映画祭で金獅子賞受賞
10月　長野新幹線（北陸新幹線）、東京～長野間が開業
12月　映画「タイタニック」公開

熱量変更作業に伴う技術指導事業の開始（平成9年7月8日）

熱量変更技術指導事業者には、既に熱量変更事業を完了した大阪ガス(※)と広島ガス(※)から経験豊かな指導員を迎え、天然ガス転換作業に関する技術ノウハウの指導をいただいた。

特に全てが初めての経験となる第1期橋南地区での指導では、大阪ガスの指導員に松江市に常駐いただき、供給部門と運営・技術部門毎に現場で熱い実務指導がスタートした。

転換供給部門では、転換地区（セクター）毎に安全に天然ガスを供給するために冬期のガス圧測定調査や供給・遮断テストによる導管の確認、セクター分割のためのバルブ設置工事の実施、ガス置換（パージ）に向けた準備作業等々、日中作業に加えて連日の夜間作業でも指導が行われた。

運営・技術部門では、転換当日に全てのガス器具を天然ガス用に調整するため、顧客やガス器具型式など各種情報を整理して業務用機器の先行調査や不良給排気設備の改善、各種管理システムの運用方法等々、天然ガス転換当日に向けて試行錯誤しながら、指導に受けた事前準備は着々と進んでいった。

※大阪ガス株式会社
※広島ガス株式会社

松江南消防庁舎液化石油ガス設備完成（平成9年6月12日）

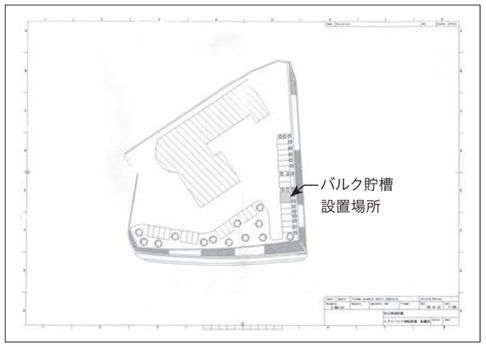
本市ガス局では、平成9年7月1日より液化石油ガス（LPG）の供給を開始した松江南消防署（松江市矢田町）に、空調設備及び給湯設備、一般用ガス機器（ガスコンロ等）を設置した。この松江南消防署は、阪神・淡路大震災を機に、これまで以上に迅速な消防防災体制を構築するべく進められていたもので、この完成により、同消防局管内唯一の消防署であった松江消防署（松江市西川津町）の名称を松江北消防署に変更、これによって本市の消防防災体制は北と南との二署体制となった。南署が受け持つエリアは、大橋川を境にした本市南部と八束郡東出雲町（当時）、八雲村（当時）、玉湯町、宍道町の四町村（当時）となり、高規格救急自動車、地震等で活躍する救助工作車などを備える。



LPG供給設備



仮設状況（1tバルク貯槽）



LPG供給設備（配置図）

熱量変更に向けて

簡易ガス事業のあじさい団地を開始(平成9年10月1日開始)

平成8年8月に民間事業者からあじさい団地造成工事の協議申請を受けた。

同開発区域は松江市上東川津町で国道431号線の東側に位置し、本市ガス局の都市ガス供給区域外であるため団地の東側にボンベ庫(ガス発生設備)を設置し液化石油ガス(LPG)を供給する簡易ガス事業とした。

平成8年10月2日に簡易ガス事業許可を得て平成9年10月1日に事業開始した。





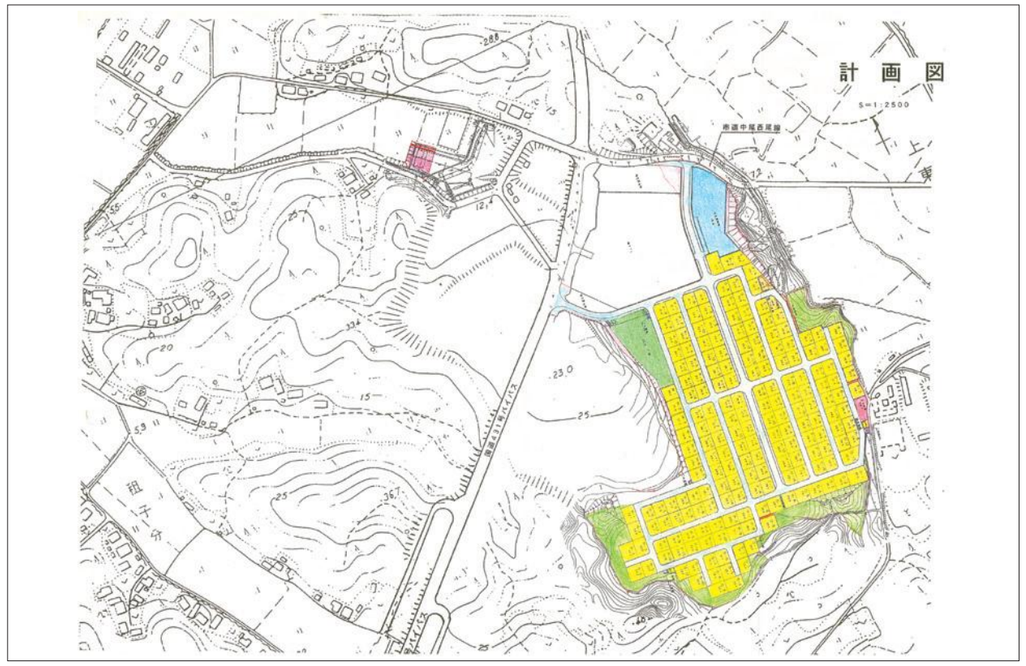
ボンベ庫(平成9年8月15日完成)

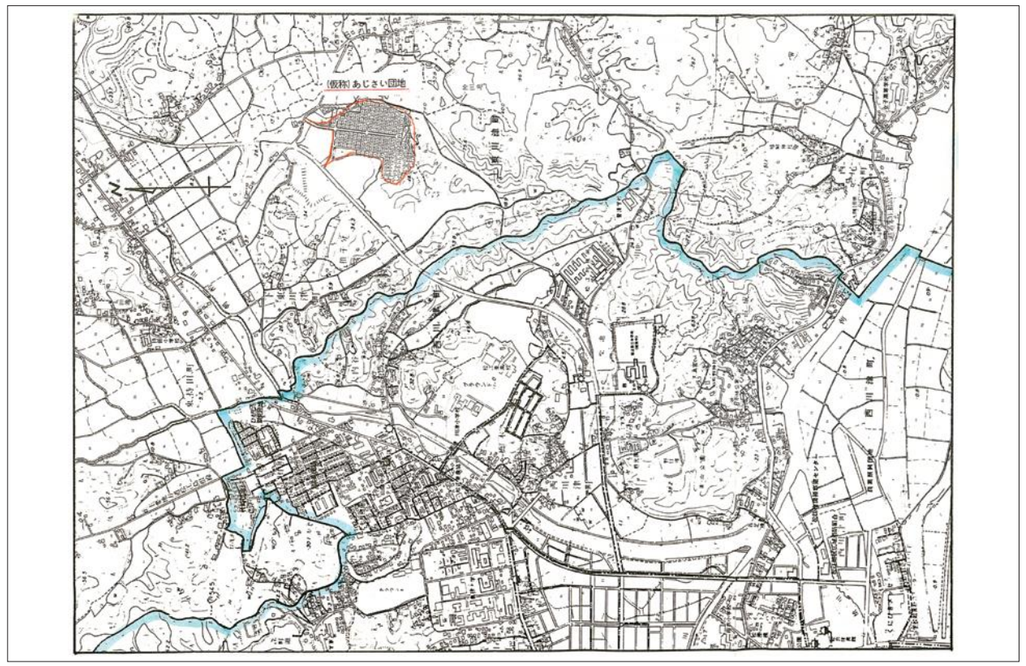
供給地点	あじさい団地 195地点
製造所名	あじさい団地特定製造所
事業許可年月日	平成8年10月2日
許可番号	8中国通産公第1720号
事業開始年月日	平成9年10月1日
製造所位置	松江市上東川津町744番地35
集合装置	液化石油ガス(LPG) 50kg容器40本×2系統 外径34.0㎜×21.000m STPG370
気化装置	自然気化
調整装置	バネダイアフラム式 二段二次減圧式 200kg/h×2基

簡易ガス事業からコミュニティーガス事業へ

木炭や練炭など、かつて家庭用燃料の主力であった固体燃料に代わって昭和30年頃から台頭してきた液化石油ガス(LPG)。それまで使われてきた木炭などに比べて手間がかからず、各戸ごとにLPGを充てんした容器(ボンベ)で安定的に供給されることから一気に普及が進んだ。昭和40年代に入り、市街地から離れた地域で住宅団地開発が急速に進んだ事をきっかけに、LPGを導管で供給する「導管供給方式」が採用されるようになる。こうした状況に伴い、70戸以上の団地に対し、国では公益事業における「導管供給事業」とした。そして、この事業を簡易ガス事業と規定し、昭和45年4月「ガス事業法」を改正し、同法の適用を受ける事になる。以降、その簡易性や迅速性、経済性などが高く評価されて全国に広がっていく。そして平成29年4月のガス事業法改正により、「簡易ガス事業」という文言が法からなくなり、ガス小売事業の一部となった。

一般社団法人 日本コミュニティーガス協会では、「旧簡易ガス事業」を「コミュニティーガス事業」と呼称されることとなる。





造成計画図

1998
［平成10年］

松江市ガス局の動き

8月18日　インターネットでホームページ開設
10月12日　新ガス基地建設工事安全祈願祭・起工式
11月　新ガス基地建設開始（第1期）

ガス・エネルギー業界の動き

2月20日　四国電力の停電事故に伴う四国ガス閉栓措置、日本ガス協会救援対策本部設置（四国ガス8,973戸閉栓）
3月11日　通産省、「ガス安全高度化検討会」報告書まとまる
6月11日　総合エネルギー調査会、「長期エネルギー需給見通し」改訂
7月１日　日本ガス協会、調査部を企画部に統合、ガス導管漏洩対策技術開発プロジェクト部を設置
9月11日　通産省、「都市ガス事業構造改革研究会」報告書まとまる
10月５日　日本ガス協会、新JGA ネットの運用を開始
10月31日　都市ガスの需要家数（取付メーター数）が2,500万件を突破
12月　日本ガス協会、LNG自動車及びLNG充てん設備を開発

松江市の動き

1月　運輸省の「観光地づくり推進モデル事業」のモデル地区に指定
7月６日　「マリンプラザしまね」が完成し、高速船レインボー2が就航（旧島根町）

社会の動き

［政治・経済］
7月　橋本龍太郎内閣が総辞職、小渕恵三首相就任
8月　北朝鮮のミサイル、テポドンが三陸沖に落下
10月　日本長期信用銀行、債務超過で経営破綻
12月　特定非営利活動促進法（NPO法）が施行される

［社会］
2月７日　長野冬季五輪が開幕（～22日）
2月　郵便番号が7桁になる
6月10日　FIFAワールドカップフランス大会、日本初出場（～7月12日）
7月　吉田正が国民栄誉賞を受賞
7月　和歌山市の夏祭りでカレーに毒物が混入される事件が起こる（死者4人）
7月　Windows98日本語版発売
8月　夏の甲子園で横浜高校・松坂大輔投手が決勝戦でノーヒットノーラン、59年ぶり史上2人目。横浜高校は史上5校目の春夏連覇
10月　黒沢明が国民栄誉賞を受賞

インターネットでホームページ開設

平成10年8月18日よりインターネット上にて本市ガス局のホームページを公開した。当時21世紀に向けた新しい広告媒体として急速な発展を遂げていたインターネットは、即時性メディアとして大きな注目を浴びていたためだ。本市ガス局のホームページでは、熱量変更情報をはじめとするガスの利用についての案内や様々な新しい情報を発信し、ガス利用者が有効活用できるコンテンツを充実させていく。



新ガス基地建設工事安全祈願祭・起工式（平成10年10月12日実施）

宮岡寿雄市長をはじめ本市関係者、本市ガス局関係者、施工業者OGE(※)、IHI(※)各関係者を合わせた約90名が出席するなか、新基地建設工事安全祈願祭と起工式が行われた。

既に建設が開始されていた天然ガス転換センターを含むサテライト基地、ガスホルダー建設工事が無事故で完成することを祈願をすると共に本格的にスタートする熱量変更事業のPRも合わせて行われた。

※OGE　大阪ガスエンジニアリング株式会社
※IHI　石川島播磨重工業株式会社



平成10年10月14日掲載（島根日日新聞）



平成町庁舎　天然ガス転換センター竣工（平成11年1月20日竣工）

年の明けた平成11年1月20日、平成町の新基地内にて建設が行われていた天然ガス転換センターが完成した。約2万7千㎡の敷地面積を有する同基地内には将来の新庁舎にもなる天然ガス転換センターの他、液化天然ガス（LNG）貯蔵タンクをはじめガス発生設備、加圧機などを整備する。引き渡しは2月4日に行われた。今後は平成12年度より橋南地区から始まる熱量変更の準備作業や熱量変更期間の共同化の調整員の受入などに伴い、順次整備していく。


当時、地面は砂利の状態



平成10年10月8日掲載（山陰中央新報）

1999
［平成11年］

松江市ガス局の動き

1月20日　平成町クレアヒル内に、橋南地区天然ガス転換センターとして庁舎新築（鉄筋コンクリート2階建）
5月11日　橋南地区熱量変更開始まで365日
5月13日　シンフォニータウン乃白簡易ガス事業許可
11月30日　平成町　部品センター新築（軽量鉄骨造２階建）

ガス・エネルギー業界の動き

2月１日　総合エネルギー調査会都市熱エネルギー部会中間報告書まとまる（参入規制、料金規制等の見直し）
2月25日　日本ガス協会、固体高分子型燃料電池の高効率化・コスト低減のための運転研究開始
3月31日　ガス導管の「浅層埋設」を認める建設省道路局の通達出される
4月15日　物価安定政策会議の公共料金情報公開検討委員会「都市ガス料金作業部会」の報告まとまる
9月14日　新庄都市ガスの製造設備一部焼損に伴う供給支障発生、日本ガス協会救援対策本部設置（新庄都市ガス1,645戸供給停止）
10月１日　新日本ガス、久喜都市ガスが合併、新日本ガスとなる
10月１日　我孫子ガス、取手ガスが合併、東日本ガスとなる
10月１日　日本ガス協会、燃料電池プロジェクト部設置
10月21日　総合エネルギー調査会都市熱エネルギー部会「中間報告書」まとまる（事業規制関係の新制度の詳細設計）
11月19日　供給規定に係る規制及び名称の見直し、選択約款の導入、接続供給制度、地方ガス事業調整協議会の廃止、兼業規制の廃止等（改正ガス事業法施行）

松江市の動き

4月27日　秋鹿なぎさ公園完工
6月18日　抑制ぼたん特許取得
11月　八雲国際演劇祭開催
11月９日　中国吉林市と友好都市提携

社会の動き

［政治・経済］
1月　地域振興券の交付開始
4月　作家 石原慎太郎が東京都知事に当選
6月　男女共同参画社会基本法の施行
8月　国旗・国歌法が成立

［社会］
2月　NTTドコモiモードサービス開始
5月　瀬戸内しまなみ海道が開通
9月　東海村JCO臨海事故
12月　山形新幹線、山形～新庄間が開業

橋南地区熱量変更開始まで1年を切る

中国ブロック熱量変更共同化事業体プロジェクトとして行う、天然ガス転換事業の第1期となる橋南地区の転換開始まで1年と迫るなか、天然ガス転換センターの竣工、サテライト設備建設の着工、熱量変更作業担当組織の決定、各作業の実地研修、供給・遮断テストのスタート等、転換開始に向けて具体的な準備業務がスタート。

転換供給チームでは、供給テスト（全23回）、遮断テスト（全12回）を3月24日～8月5日にかけて実施。

運営チーム推進グループでは、メーター号数30号以上のお客様宅68件を対象に業用先行調査を5月6日～6月上旬にかけて実施。

運営チームは5月19日～21日にかけて、熱量変更システム端末機2台を転換センターに設置して入力方法の研修を行った。一般ガス機器調査を7月～10月に実施。

運営チーム総務グループは、広報まつえに記事の掲載、PRポスター作成、料金システム端末機の設置、顧客情報の収集・整理を進めた。

6月17日には、広島ガスでの調整員教育を修了した職員のさらなる技術向上のため、熱量変更棟の1階に実習室を新設。コンロ、湯沸器、炊飯器、給湯器、風呂釜、ファンヒーター、ストーブ等、各種ガス機器を準備し、当該職員だけでなく、調整実習を学びたい職員などにも広く呼びかけ、1年後の熱量変更に備えた。

最優秀賞
やるぞ松江の熱変を、英知と熱意で無事故で「O（オー）」！
運営チーム　門前　幸生さん　転供チーム　福島　敏正さん

優秀賞
無事故・無災害の熱変を目指し、水都に灯そうクリーンな炎
運営チーム　吉岡　義洋さん　山根　紀夫さん

ひとつひとつに真心込めて、古都に灯そうクリーンな炎
運営チーム　浜田　裕さん

南から北へ炎のかけ橋、水都に輝くクリーンな炎
運営チーム　原　大助さん

熱量変更開始100日前、職員から募集したスローガンが決定



松江市ガス局熱量変更シンボルマーク
- 低カロリー（5C）から高カロリー（13A）を炎で表現
- GAS（ガス）のGを表現
- 水の都松江の宍道湖をイメージ







向島町熱量変更棟実習室では器具を揃えて調整作業等の実習を行なった



「広報まつえ」を通じて市民に周知

熱量変更に向けて

新ガス基地の建設（第1期）

平成10年6月より建設が始まったLNGサテライト基地の完成にあたり、天然ガス転換センターにて関係者約120名が出席の竣工式を平成12年3月30日に挙行した。宮岡寿雄市長は出席者を代表して、「本サテライト設備は天然ガスを原料とした都市ガス製造設備である。天然ガスはメタンを主成分とし、燃やしても硫黄酸化物を発生せず、また地球温暖化の原因といわれる二酸化炭素の排出量も石油より2～3割少ない環境に優しいクリーンなエネルギーである」と説明。また「松江市ガス局熱量変更事業は今年5月から橋南地区を、また平成16年には橋北地区に天然ガスを供給する計画である」と述べた後、「本設備が都市施設の一環としてさらなる一翼を担うことを期待している」と締めくくった。式典の終了後には、大阪ガス姫路製造所の協力で液体窒素を使った冷熱実験とLNGサテライト基地の施設見学も行われた。

また、竣工式に先立って液化天然ガス（LNG）初搬入を祝う受入式が関係者約50名が出席して2月16日に行われた。インドネシアなど4カ国から輸入されたLNGは、LNG貯槽（150kl）2基を備える基地内にタンクローリー2台を使って姫路市から1日おきに搬入される。出席者を代表してあいさつした宮岡市長は、「大口需要者の開拓やバスなど車両への供給にも取り組み、経営の安定化に努めたい」と述べた。



基礎工事



搬入されるLNG貯槽



空温式LNG気化器



新基地全景



LNG貯槽、空温式LNG気化器、BOG加温器、ミキシングタンク



全景（当時はLNG貯槽2基）



第1期工事 配置図